

# 館山市長須賀条里制遺跡

— 一般国道410号道路改築事業（大坪）埋蔵文化財調査報告書 —

平成18年12月

千葉県県土整備部

財団法人 千葉県教育振興財団

たて やま      なが す か      じょう り      せい  
館山市長須賀条里制遺跡

— 一般国道410号道路改築事業（大坪）埋蔵文化財調査報告書 —



## 序 文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第563集として、千葉県県土整備部の一般国道410号道路改築事業に伴って実施した館山市長須賀条里制遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、古墳時代頃の小区画水田跡や奈良・平安時代頃の条里型水田跡が発見されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また地域の歴史解明の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成18年12月

財団法人 千葉県教育振興財団  
理事長 岡野孝之

## 凡 例

- 1 本書は、千葉県県土整備部による一般国道410号道路改築事業（大坪）に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県館山市下真倉字大坪263ほかに所在する長須賀条里制遺跡（遺跡コード 205-002(3)・(4)）である。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県県土整備部の委託を受け、財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の執筆・編集は、研究員 高梨友子<sup>1</sup>が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、千葉県県土整備部安房地域整備センター、館山市教育委員会、県立安房博物館の御指導・御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
  - 第1図 国土地理院発行 1/25,000地形図「安房古川」(NI-54-26-2-2)  
国土地理院発行 1/25,000地形図「那古」(NI-54-26-2-4)  
国土地理院発行 1/25,000地形図「千倉」(NI 54 26 3 1)  
国土地理院発行 1/25,000地形図「館山」(NI-54-26-3-3)
  - 第2図 館山市役所発行 1/2,500地形図No.26  
館山市役所発行 1/2,500地形図No.27
  - 第57図 館山市役所発行 1/2,500地形図No.26  
館山市役所発行 1/2,500地形図No.35
- 8 周辺地形航空写真（図版1）は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位はすべて座標北である。測量値については日本測地系を使用した。
- 10 遺構名については原則的に発掘調査時の名称を使用した<sup>2</sup>が、一部振り替えたものもある。新旧遺構名の対応は第1表のとおりである。なお、遺物への注記は全て旧遺構名で行っている。
- 11 遺物実測図の赤色は、赤彩を表す。
- 12 遺物実測図断面の黒塗りは須恵器または灰釉陶器を表し、●は繊維混入を表す。
- 13 木製品実測図の断面に表現した年輪は、木取りを模式的に表したもので、実際の年輪を実測したものではない。
- 14 挿図に使用したスクリーントーン及び記号の用例は、各図に示したとおりである。

# 本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	遺跡の位置と周辺の環境	1
第3節	調査の概要と経過	3
1	これまでの調査成果の概要	3
2	調査の経過	3
第4節	基本土層	5
1	基本層序	5
2	基盤層	8
第2章	検出された遺構と遺物	10
第1節	弥生時代以前の出土遺物	10
第2節	古墳時代～奈良・平安時代の遺構と遺物	10
1	土坑	10
2	水田跡	15
3	古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物	20
第3節	中世以降の遺構と遺物	29
1	掘立柱建物跡	29
2	土坑	31
3	溝状遺構	32
4	中世以降の出土遺物	35
第3章	汐入川採集遺物	36
第4章	まとめ	38
	報告書抄録	巻末

## 挿図目次

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡 (1:25,000)	2	第32図	古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物 2	23
第2図	調査区と周辺地形 (1:5,000)	4	第33図	古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物 3	24
第3図	調査区とトレンチ設定図	6	第34図	古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物 4	25
第4図	遺構配置図	7	第35図	古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物 5	26
第5図	基本層序	8	第36図	古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物 6	27
第6図	基盤層土層断面図 1	8	第37図	古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物 7	28
第7図	基盤層土層断面図 2	9	第38図	SB-001	30
第8図	弥生時代以前の出土遺物	11	第39図	SB 002	31
第9図	SK-001	13	第40図	SK-003	33
第10図	SK-002	13	第41図	SK-004	33
第11図	SK-007	13	第42図	SK-005	33
第12図	SK 008と出土遺物	13	第43図	SK-006	33
第13図	SK-009	13	第44図	SK-012	33
第14図	SK-010	13	第45図	SK-014	33
第15図	SK-011	13	第46図	SK-017・018	33
第16図	SK-013と出土遺物	13	第47図	SK-019	33
第17図	SK-015・016	14	第48図	SK 020	34
第18図	SK-028	14	第49図	SK-021	34
第19図	SK-029	14	第50図	SK-022	34
第20図	SK-030	14	第51図	SK-023・024	34
第21図	SK-031	14	第52図	SK-025	34
第22図	SK-033	14	第53図	SK-026	34
第23図	SK-032	15	第54図	SK-027	34
第24図	SK-034	15	第55図	中世以降の出土遺物	35
第25図	水田跡 (第3面)	16	第56図	沙入川採集遺物	37
第26図	水田跡 (第2面)	17	第57図	長須賀条里制遺跡坪地割推定復元図	39
第27図	水田跡 (第1面) 1	18			
第28図	水田跡 (第1面) 2	19			
第29図	水田跡土層断面図	20			
第30図	足跡 (第1面)	21			
第31図	古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物 1	22			

## 表 目 次

第1表	長須賀条里制遺跡（大坪地区）遺構一覧表	41
第2表	長須賀条里制遺跡（大坪地区）掲載土器等観察表	42
第3表	長須賀条里制遺跡（大坪地区）掲載土製品観察表	44
第4表	長須賀条里制遺跡（大坪地区）掲載石器・石製品観察表	45
第5表	長須賀条里制遺跡（大坪地区）掲載銭貨計測表	45
第6表	長須賀条里制遺跡（大坪地区）掲載木製品計測表	45
第7表	長須賀条里制遺跡（大坪地区）掲載遺物重量表	46
第8表	長須賀条里制遺跡（大坪地区）非掲載遺物重量表	46

## 図 版 目 次

図版1	遺跡周辺航空写真（1：10,000）	図版7	弥生時代以前の上出遺物 1 弥生時代以前の上出遺物 2
図版2	水田跡（第1面） 水田跡（第1面） 水田跡（第2面）	図版8	古墳時代～奈良・平安時代の上出遺物 1
図版3	水田跡（第3面） 水田跡（第3面） SB-001・002	図版9	古墳時代～奈良・平安時代の上出遺物 2 古墳時代～奈良・平安時代の上出遺物 3
図版4	SK-001, SK-002 SK 003, SK 004 SK-005, SK-006 SK-007, SK-008	図版10	古墳時代～奈良・平安時代の上出遺物 4
図版5	SK 010, SK-011 SK-012, SK-013 SK-014, SK-015・016 SK-017・018, SK-022	図版11	古墳時代～奈良・平安時代の上出遺物 5
図版6	SK-023・024, SK 026 SK-028, SK-029 SK 032, SK 034 SD-001, SD-003	図版12	古墳時代～奈良・平安時代の上出遺物 6
		図版13	古墳時代～奈良・平安時代の上出遺物 7
		図版14	中世以降の上出遺物 1 中世以降の上出遺物 2
		図版15	沙入川採集遺物

## 第1章 はじめに

### 第1節 調査に至る経緯

千葉県県土整備部は、館山市街地の混雑緩和のため、国道410号のバイパス建設事業を計画した。この事業に当たって千葉県県土整備部は、事業予定地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会を提出し、千葉県教育委員会から、事業地内に遺跡が所在する旨の回答を得た。その後、遺跡の取扱いについて両者の間で協議が重ねられ、発掘による記録保存の措置を講ずることとなった。調査は財団法人千葉県教育振興財団が実施することとなり、千葉県と委託契約を締結して発掘調査を実施した。

### 第2節 遺跡の位置と周辺の環境（第1図）

房総半島南端に位置する館山平野は、鏡ヶ浦とも呼ばれる浅遠で波静かな館山湾に西面し、北・東・南の三方向を丘陵に囲まれた、南北に長い海岸平野である。平野内には大小数多くの砂丘列が存在するほか、過去に幾度も氾濫を繰り返してきた平久里川、汐入川などによって形成された自然堤防が存在し、これらが組み合わさって複雑な地形を呈している。

長須賀条里制遺跡（1）は、主に砂丘列間の後背湿地に立地している遺跡で、周辺には数多くの遺跡が所在しているが、それらのうち調査の行われたものを中心に概観してみたい。

遺跡が認められるのは縄文時代からである。周辺の沿岸部には海蝕洞穴が多くみられるが、一般に広く知られている遺跡として、市指定史跡の大寺山洞穴遺跡（7）が挙げられる。大寺山洞穴遺跡では縄文時代中期～後期を主体とする遺物包含層が検出され、完全な形の人骨等も出土した<sup>1)</sup>。出野尾貝塚（13）も海蝕洞穴遺跡で、縄文時代前期の土器が出土している<sup>2)</sup>。また、宮原貝塚（12）では縄文時代中期の炉跡が検出された<sup>3)</sup>。このほか、遺構は検出されないながらも、東山遺跡（10）で縄文時代早期～晩期の土器片が<sup>4)</sup>、東田遺跡（9）で縄文時代早期・前期の土器片が出土している<sup>5)</sup>。

弥生時代の遺跡としては、萱野遺跡（3）や東田遺跡などが挙げられる。萱野遺跡では弥生時代後期の環壕のほか、多数の竪穴住居跡や方形周溝墓などが検出された<sup>6)</sup>。東田遺跡では、竪穴住居跡や方形周溝墓、溝状遺構が検出され、弥生時代中期～後期に比定される多数の土器が出土した<sup>7)</sup>。

古墳時代の遺跡は数多く確認されているが祭祀遺跡が多く、中でも東田遺跡は、古墳時代後期の集落と古墳時代後期～奈良・平安時代に比定される大溝及び大型掘立柱建物跡などが検出され、多量の土器とともに土製模造品類などが出土し、特筆される<sup>8)</sup>。このほか土製模造品類の出土した遺跡として、つとるば遺跡（8）、大戸館ノ前遺跡（11）、東長田遺跡（14）などがある。また、集落や墓塚としては、萱野遺跡、大寺山洞穴遺跡、峯古墳（5）などがある。萱野遺跡では、古墳時代前期及び後期の集落が確認され、前期古墳の周溝の可能性もある溝も検出されている<sup>9)</sup>。大寺山洞穴遺跡では、丸木舟を転用した舟棺が洞穴内で検出されたほか、多種多様な副葬品が出土し注目される<sup>10)</sup>。峯古墳は、周辺で高塚古墳があまり確認されていないなか貴重な存在で、詳細は明らかではないものの、滑石製勾玉やガラス玉のほか、国内産ではない可能性も指摘されるトンボ玉などが伝世している<sup>11)</sup>。

奈良・平安時代では、県指定史跡の安房国分寺跡（4）がある。安房国府も付近にあると推定されるが、



現在のところ、国府に直接関連すると考えられる遺構は見つかっていない。発掘調査によって明らかになった奈良・平安時代の遺構は、荻野遺跡や東田遺跡などでみられる。また、この周辺では「坪」の付く地名が多くあり、北条条里制遺跡（2）など、条里区画のみられる遺跡が特徴的である。

中・近世では、市指定史跡の館山城跡（6）や船村城跡などの城館跡が知られているほか、荻野遺跡で掘立柱建物跡や井戸、方形竈穴遺構などが検出された。

### 第3節 調査の概要と経過（第2・3図）

#### 1 これまでの調査成果の概要

長須賀条里制遺跡は長大な遺跡で、発掘調査はこれまでに数度にわたって行われ、報告書もそれぞれ刊行されている。まず平成5年度から平成10年度にかけ、今回と同じ路線事業に伴って南北約1.2kmの区画が調査された。北端は北条条里制遺跡と接する。A区～F区の6か所で本調査が行われ、弥生時代中期から中世以降にわたる遺構・遺物が検出された<sup>13)</sup>。A区では、奈良・平安時代の条里型水田の畦畔が検出され、その北に位置するB区では、古墳時代の小区画水田畦畔が検出された。また、更に北方に位置するE区では、堰とみられる構築物のある弥生時代中期の旧河道や、古墳時代中期頃の水路などが検出された。水路は扉板などを再利用した導水施設を伴うもので、導水施設の先には小区画水田跡が検出されており、注目される。水路からは多量の土器のほか、子持勾玉を初めとする石製模造品類や銅鏡といった祭祀遺物も出土した。今回報告する調査区はA区の南約150mの位置に所在しており、字名をとって「大坪地区」と呼称することとした。

このほかにも、平成6年度には長須賀条里制遺跡調査会による調査<sup>14)</sup>が、また平成11年度には、館山大貝千倉線に伴う調査<sup>15)</sup>等が行われ、条里型水田畦畔とも考えられる溝などが検出されている。

#### 2 調査の経過

大坪地区の発掘調査は、平成15年度と平成17年度に行われ、調査対象面積は合計で3,600㎡である。

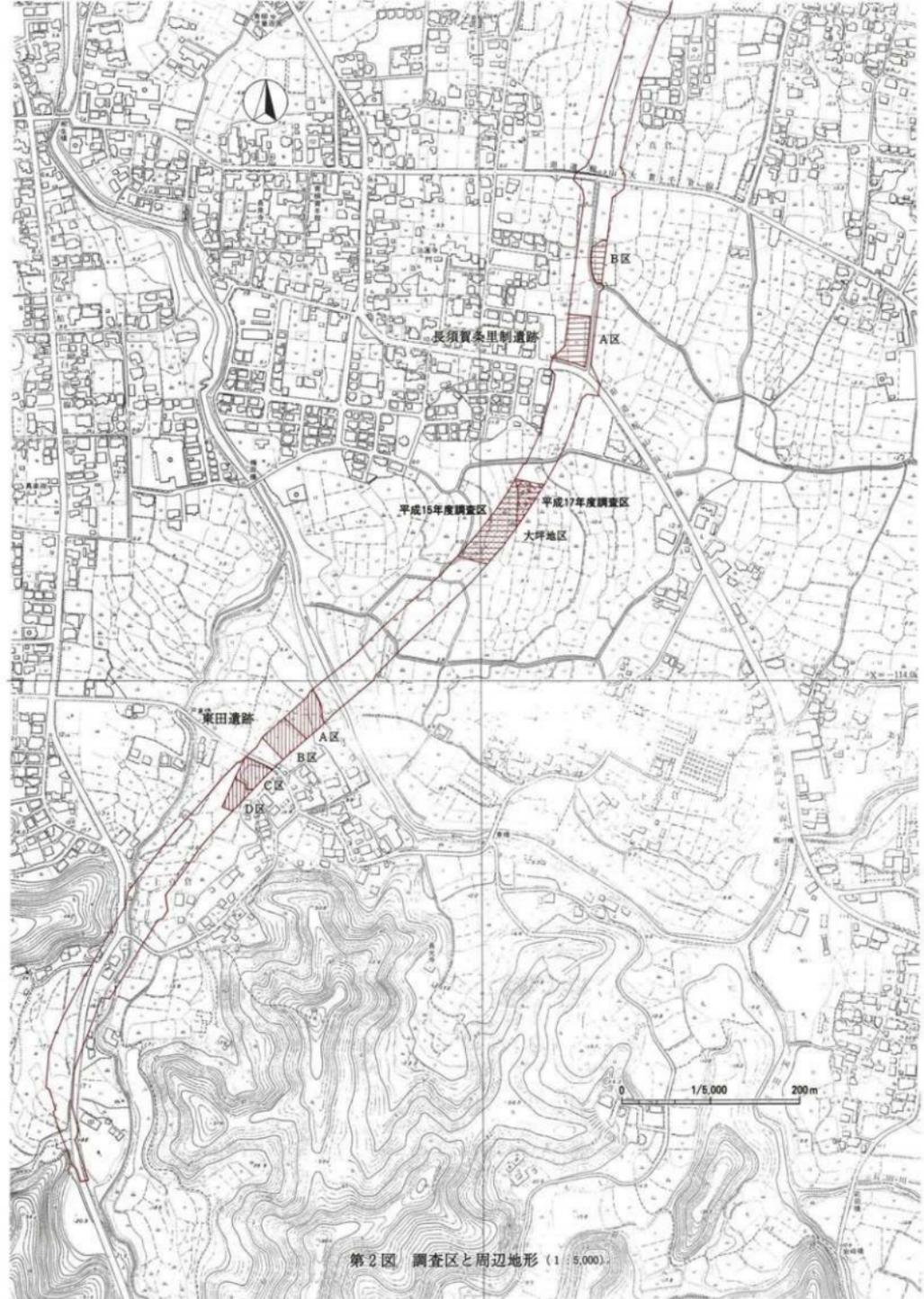
発掘調査に当たっては、平成5年度に設定された、公共座標に基づくグリッドを用いた。20m×20mの方眼を被せそれを大グリッドとするもので、大グリッドはX座標=-113.0km、Y座標=+3.0kmを起点として、北から南へ1・2・3…、西から東へA・B・C…とした。そして大グリッドの中は更に2m×2mの小グリッドに100分割し、北西隅から00・01…とし、南東の隅を99とした。これにより、大グリッドと小グリッドの組み合わせで、1A-01、2C-55というように小地区名の表示を行った。

平成15年度はまず、3,600㎡のうち南側の2,500㎡について10%（250㎡）のトレンチを入れて確認調査を行った。その結果、古墳時代の小区画水田跡1面と奈良・平安時代の条里型水田跡1面が検出されたほか、上坑などが調査区内に全面的に広がっていることが明らかとなり、引き続き本調査を行った。

平成17年度は、残りの1,100㎡について本調査を行ったところ、古墳時代の小区画水田跡2面と奈良・平安時代の条里型水田跡1面、そのほか土坑などが検出された。

整理作業は平成15年度調査分と平成17年度調査分を合わせて平成18年度に行い、同年度中に報告書を刊行した。

本事業に関わる各年度の期間と内容、担当職員は以下のとおりである。



第2図 調査区と周辺地形 (1:5,000)

## 発掘調査

### ○平成15年度

期 間 平成16年1月6日～平成16年3月26日

内 容 確認調査 上層250㎡/2,500㎡

本調査 上層2,500㎡

組 織 調査部長 斎木 勝 南部調査事務所長 鈴木定明

担当者 研究員 城川義友

### ○平成17年度

期 間 平成17年5月6日～平成17年6月23日

内 容 本調査 上層1,100㎡

組 織 調査部長 矢戸三男 南部調査事務所長 高田 博

担当者 上席研究員 麻生正信

## 整理作業

### ○平成18年度

期 間 平成18年6月1日～平成18年8月31日

内 容 水洗・注記～報告書刊行

組 織 調査研究部長 欠戸三男 南部調査事務所長 高田 博

担当者 研究員 高梨友子

なお、遺構は各年度ごとに、遺構の種類によって掘立柱建物跡=SB、溝状遺構=SD、土坑=SK、ピット=SPなどの略称を接頭につけてそれぞれ1から順に遺構番号をつけたが、同じ地区内で同名の遺構が存在することになるため、整理作業段階で、平成17年度に検出されたものについては、平成15年度に検出された遺構の続き番号とすることにした。調査した遺構は全て一覧表として第1表にまとめ、調査時と報告書における遺構名の対応関係を明記した。

## 第4節 基本土層

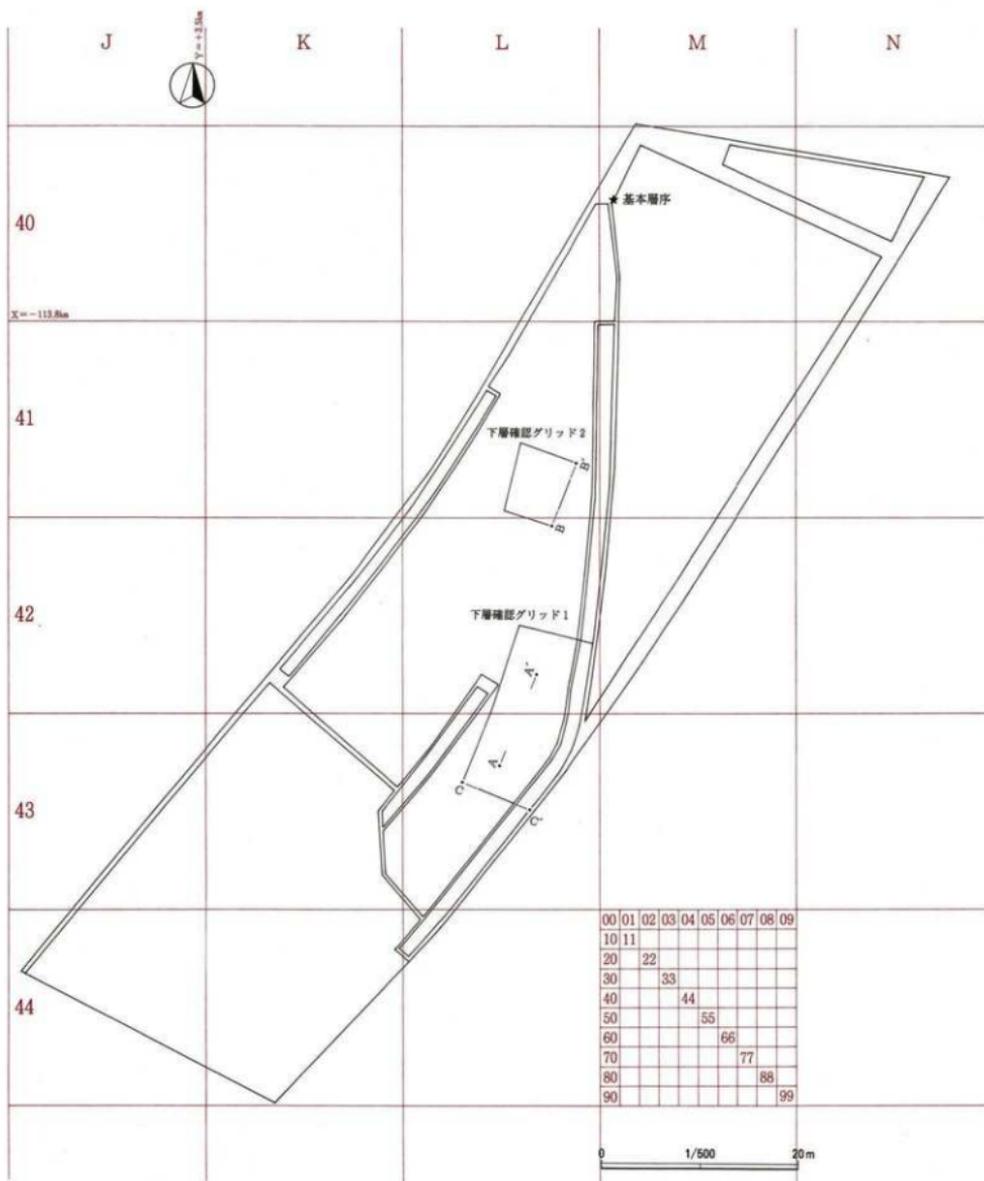
### 1 基本層序（第5図）

大坪地区の基本層序は、第5図のとおりである。土層の堆積状況は、大坪地区内でも地点によって異なりを見せるが、最も代表的な層序を取り上げ、基本層序とする。

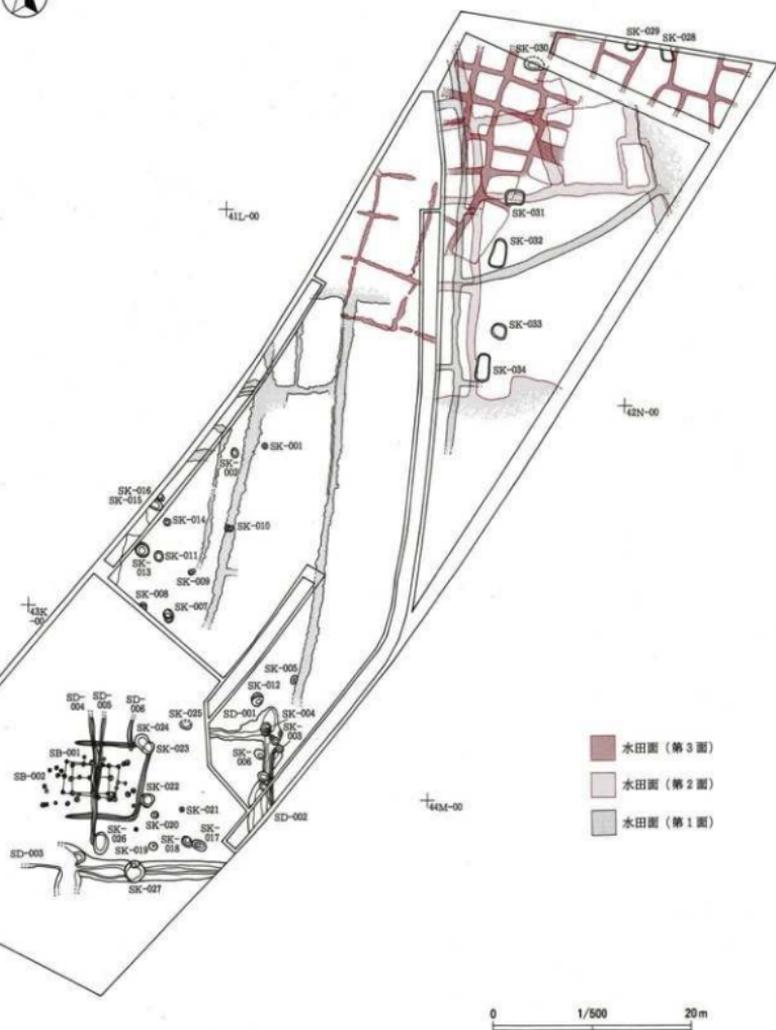
遺跡の現況は水田で、現水田耕作土の下に堆積する1層から4b層は、出土遺物等からいずれも近世以降の耕作土と考えられる。

5層は奈良・平安時代～中世頃の条里型水田の耕作土と考えられる層で、5層上面が最初の遺構確認面（第1面）である。なお、条里型水田の畦畔は、別地点において、5層に類似するやや暗い色調の層（第29図4層）として確認された。

6層～8層は古墳時代以前の耕作土と考えられるが、平成15年度調査区では、7層上面において下層の



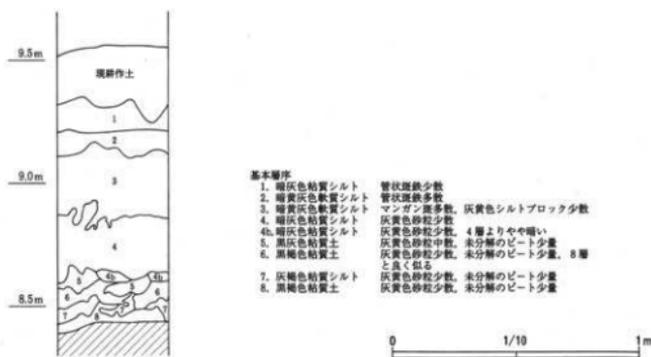
第3図 調査区とトレンチ設定図



第4図 遺構配置図

小区画水田を検出した（第3面）。この小区画水田の畦畔は、現状では地山の高まりとして土層断面で確認され（第29図参照）、遺存状態は良くないものの7層や8層がそれに伴う耕作土と考えられる。

小区画水田の畦畔は、平成17年度調査区では2面検出されている。それらのうち、下層の小区画水田は平成15年度検出のものと同じ面（第3面）と考えられるが、上層の小区画水田は、6層を耕作土とするものとみられる（第2面）。



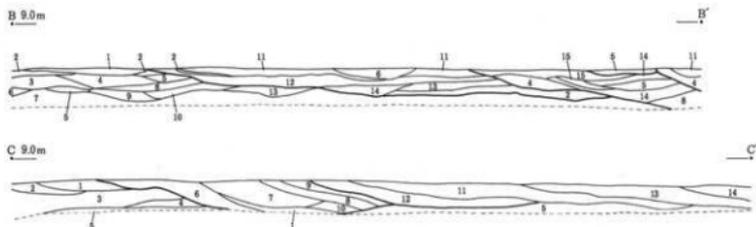
第5図 基本層序

## 2 基盤層（第6・7図）

小区画水田の基盤となっている層は、ラミナ状堆積が明瞭にみられる砂層で、洪水堆積層と考えられる。この基盤層の確認調査を行ったところ（下層確認グリッド）、層中から弥生土器（第8図8・9）や軽石製品（第8図13・14）、20cm大のクジラの骨などが出土した。



第6図 基盤層土層断面図1



基盤層土層断面B-B'

1. 中粗砂 (酸化)
2. 砂粒 (グライ化)
3. 細砂粒～粗砂 (グライ化)
4. 砂粒 (弱グライ化)
5. 中粗砂 (弱酸化)
6. 細砂粒～粗砂 (グライ化)
7. 粗砂～砂礫 (グライ化)
8. 中粗砂～粗砂 (グライ化)
9. 中粗砂 (弱グライ化)
10. 砂粒～中粗砂 (弱酸化)
11. 細砂粒 (グライ化)
12. 細砂粒 (弱グライ化)
13. 砂粒～中粗砂 (弱グライ化)
14. 中粗砂 (グライ化)
15. 砂粒 (弱酸化)
16. 細砂粒 (グライ化)

木質を多く含有する

下面に中粗砂 (酸化)

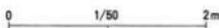
ややクマシナ臭味、ビート少量含有する  
クマシナ

木質を極めて多量に含有する

基盤層土層断面C-C'

1. 砂粒 (グライ化)
2. 砂粒～中粗砂 (弱グライ化)
3. 砂粒～粗砂 (酸化)
4. 中粗砂～粗砂 (酸化)
5. 粗砂 (グライ化)
6. 砂粒～中粗砂 (弱グライ化)
7. 中粗砂～砂礫 (弱酸化)
8. 粗砂 (弱酸化)
9. 砂粒～中粗砂 (グライ化)
10. 砂礫 (弱グライ化)
11. 中粗砂～粗砂 (弱グライ化)
12. 粗砂 (酸化)
13. 中粗砂～粗砂 (弱酸化)
14. 中粗砂 (弱酸化)

木質片を多量に含有する



第7図 基盤層土層断面図2

- 注1 岡本東三 2003 「大寺山洞穴遺跡」『千葉県の歴史 資料編2 (弥生・古墳時代)』千葉県
- 2 館山市史編さん委員会 1973 「館山市史」館山市
- 3 鈴木 昭 2002 「宮原貝塚」『(財)総南文化財センター年報 No.12—平成11年度・12年度—』
- 4 城田義友 2005 「緊急地方道路整備委託 (館山大貫倉倉線) 埋蔵文化財調査報告書—館山市長須賀条里制遺跡—東山遺跡—」財団法人千葉県文化財センター
- 5 高梨友子 2006 「館山市東田遺跡—国道410号 (北条) 埋蔵文化財調査報告書2—」財団法人千葉県教育振興財団
- 6 財団法人千葉県文化財センター 2004 「千葉県文化財センター年報 No.28—平成14年度—』
- 7 注5に同じ
- 8 注5に同じ
- 9 注6に同じ
- 10 注1に同じ
- 11 杉江 敬 2003 「峯古墳」『千葉県の歴史 資料編2 (弥生・古墳時代)』千葉県
- 12 土屋治雄・城田義友・高梨友子 2004 「館山市長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡—国道410号 (北条) 埋蔵文化財調査報告書1—」財団法人千葉県文化財センター
- 13 山武考古学研究所編 1995 「長須賀条里制遺跡発掘調査報告書」長須賀条里制遺跡調査会
- 14 注4に同じ

## 第2章 検出された遺構と遺物

### 第1節 弥生時代以前の出土遺物（第8図、図版7）

弥生時代以前の遺構は、今回の調査区からは検出されていない。しかし、遺物が水田跡や基盤層などから少量出土している。

第8図1は縄文土器で、燃糸文系土器の口縁部破片である。2～9は弥生土器で、2は鉢、3～9は壺である。8・9は下層確認グリッドの基盤層中から出土したもので（第1章第4節2、第3図参照）、ほかの弥生土器に比べ遺存度が高いのが特徴的である。10～14は石器・石製品である。10は破損して三角柱状を呈する石材の縁辺部に顕著な擦痕がみられるもので、磨石と考えられる。11・12は凹石と考えられる。13・14は軽石製品である。

### 第2節 古墳時代～奈良・平安時代の遺構と遺物

古墳時代～奈良・平安時代の遺構としては、土坑17基、水田跡などが検出された。以下、それらを遺構種類ごとに遺構番号順に報告するが、遺構の計測値は第1表にまとめてあり、詳説は省く。

#### 1 土坑

##### SK-001（第9図、図版4）

平面形は不整形を呈する。遺物は出土していないが、遺構の状況等から奈良・平安時代の所産と考えられる。

##### SK-002（第10図、図版4）

平面形は楕円形を呈する。覆土は黒灰色粘土の平層で、上部を基本層序の4層（近世以降耕作土）に覆われていた。遺物は、土器の小破片が微量出土した。遺構の時期決定は困難だが、状況等から奈良・平安時代の所産と考えられる。

##### SK-007（第11図、図版4）

平面形は楕円形を呈する。2つの土坑が重複しているように、断面形には段がみられる。遺物は出土していないが、遺構の状況等から奈良・平安時代の所産と考えられる。

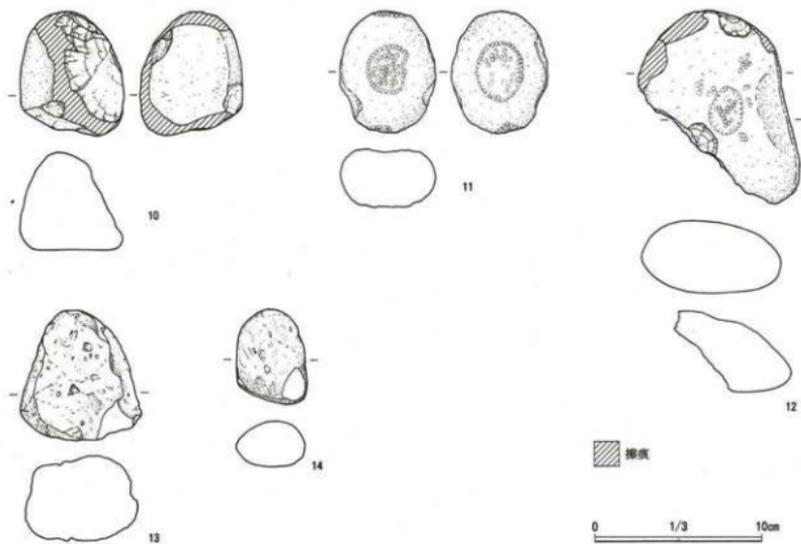
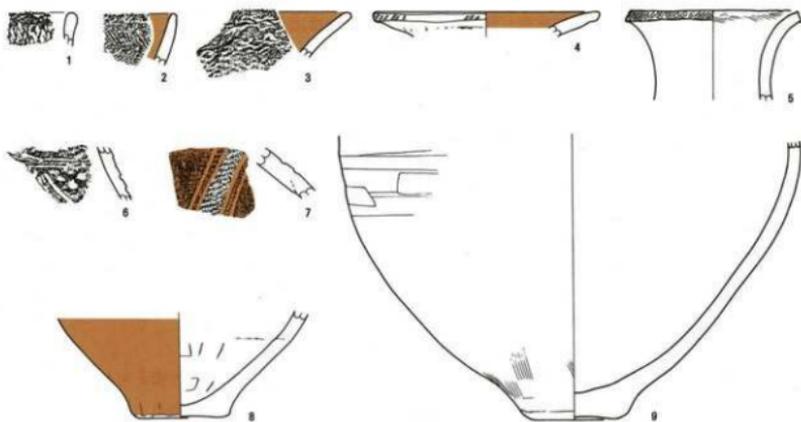
##### SK-008（第12図、図版4・8）

南西部分は排水溝に切れ検出できなかったが、平面形は円形又は楕円形と考えられる。遺物は須恵器の平瓶（第12図1）が1点と土器の小破片が微量出土し、奈良・平安時代の所産と考えられる。

図示した出土遺物は1点である。第12図1は須恵器で、体部のロクロ目の方向等から平瓶の頸部と考えられる。外面及び頸部内面に全体的に自然釉がみられる。

##### SK-009（第13図）

平面形は不整形を呈する。掲載はしていないが、遺物は木製品の破片が1点出土したのみである。遺構の状況等から奈良・平安時代の所産と考えられる。



第8図 弥生時代以前の出土遺物

SK-010 (第14図, 図版5)

平面形は、円形の2つの土坑が重複し楕円形を呈する。遺物は出土していないが、遺構の状況等から奈良・平安時代の所産と考えられる。

SK-011 (第15図, 図版5)

平面形は楕円形を呈する。遺物は土師器の小破片が微量出土した。遺構の時期決定は困難だが、状況等から奈良・平安時代の所産と考えられる。

SK-013 (第16図, 図版5・8)

平面形は円形を呈する。遺物は、手捏土器(第16図3)や高杯形土製品(第16図4)のほか、土師器片が少量出土した。古墳時代後期の所産と考えられる。

図示した出土遺物は4点である。第16図1・2は、土師器杯である。3は完形の手捏土器である。4は高杯形土製品で、裾部は内側に折り込まれ平らな面に押しつけられている。

SK-015・016 (第17図, 図版5)

北西部分は調査区外だが、並んで検出され、平面形はいずれも楕円形を呈すると考えられる。遺物は土師器の小破片が微量出土した。いずれも遺構の時期決定は困難だが、状況等から奈良・平安時代の所産と考えられる。

SK-028 (第18図, 図版6)

北部分は調査区外で検出できなかったが、平面形は隅丸長方形を呈すると考えられる。遺物は、土師器の小破片が微量出土した。遺構の時期決定は困難だが、状況等から奈良・平安時代の所産と考えられる。

SK-029 (第19図, 図版6)

北部分は調査区外で検出できなかったが、平面形は楕円形を呈すると考えられる。遺物は、土師器の小破片が微量出土した。遺構の時期決定は困難だが、状況等から奈良・平安時代の所産と考えられる。

SK-030 (第20図)

北部分は排水溝に切られ検出できなかったが、平面形は楕円形を呈すると考えられる。遺物は、土師器の小破片が微量出土した。遺構の時期決定は困難だが、状況等から奈良・平安時代の所産と考えられる。

SK-031 (第21図)

平面形は隅丸長方形を呈する。遺物は、土師器の小破片が微量出土した。遺構の時期決定は困難だが、状況等から奈良・平安時代の所産と考えられる。

SK-032 (第23図, 図版6)

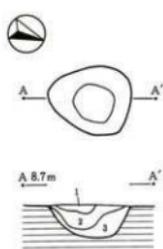
平面形は隅丸長方形を呈する。遺物は出土していないが、遺構の状況等から奈良・平安時代の所産と考えられる。

SK-033 (第22図)

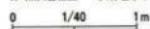
平面形は不整形円形を呈する。遺物は、掲載していないが木製品の破片が1点出土したのみである。遺構の状況等から奈良・平安時代の所産と考えられる。

SK-034 (第24図, 図版6)

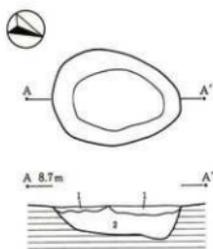
平面形は隅丸長方形を呈する。遺物は、弥生土器の小破片が微量出土したが、遺構の時期決定は困難である。状況等から奈良・平安時代の所産と考えられる。



SK-001  
 1. 暗灰色粘土  
 2. 暗褐色粘土 未分解のビート少数  
 3. 黒灰色粘土 灰青色砂中斑



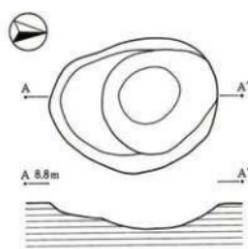
第9図 SK-001



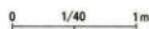
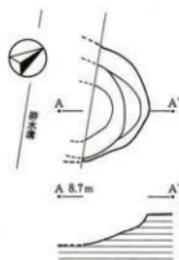
SK-002  
 1. 暗灰色粘質シルト 基本層序の4層(耕作土)  
 2. 黒灰色粘土



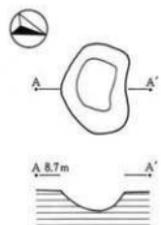
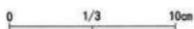
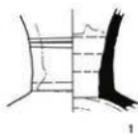
第10図 SK-002



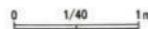
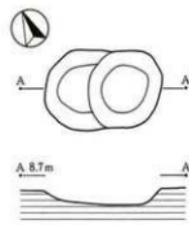
第11図 SK-007



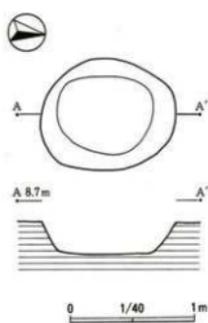
第12図 SK-008と出土遺物



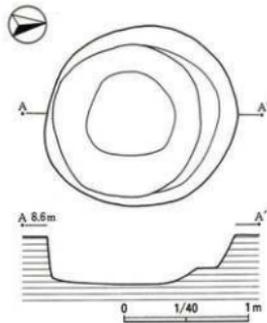
第13図 SK-009



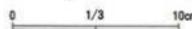
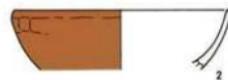
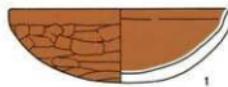
第14図 SK-010

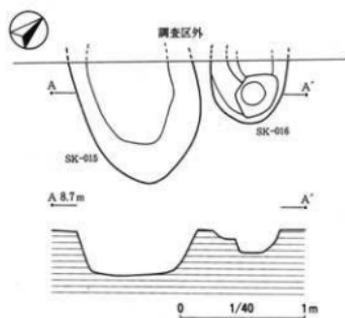


第15図 SK-011

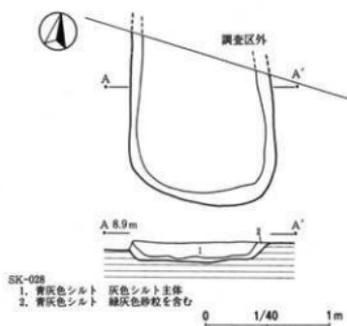


第16図 SK-013と出土遺物

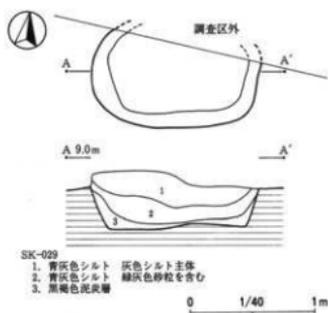




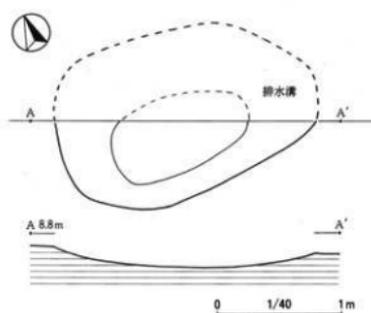
第17図 SK-015・016



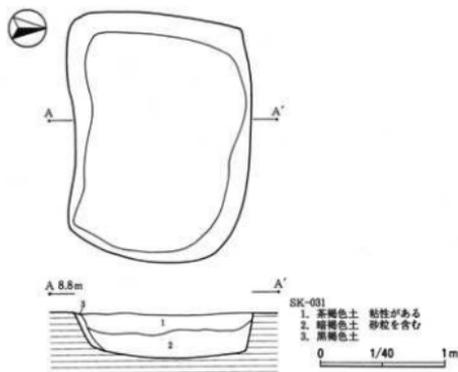
第18図 SK-028



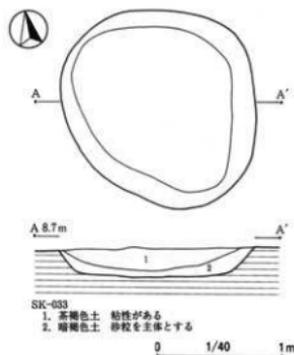
第19図 SK-029



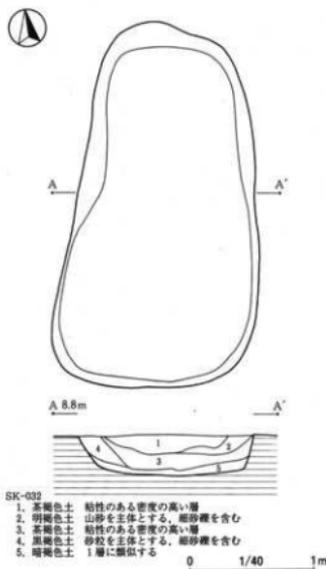
第20図 SK-030



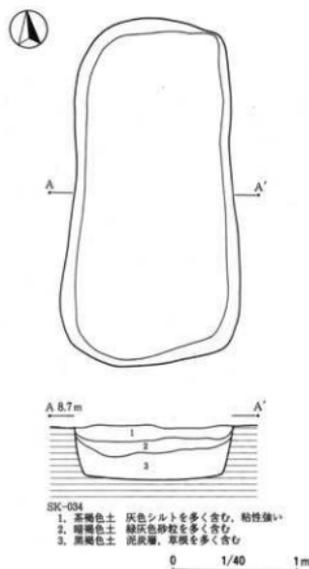
第21図 SK-031



第22図 SK-033



第23図 SK-032



第24図 SK-034

## 2 水田跡

水田跡は平成15年度調査区で2面、平成17年度調査区で3面検出された。検出面を検討した結果（第1章第4節参照）、平成15年度調査区の「上層水田」と平成17年度調査区の「第1面」、平成15年度調査区の「下層水田」と平成17年度調査区の「第3面」をそれぞれ同面と見なすこととし、上層から「第1面」「第2面」「第3面」と呼称することとした。「第1面」が条里型水田、「第2面」と「第3面」が小区画水田である。ここではそれらを古い順に報告する。

なお、各水田を構成する土層中からは遺物が出土しているが、その水田に伴うものかどうか判断しがたいたいものが多いため、表面採集遺物などとまとめて第31図～第37図に図示した。

### (1) 第3面（第25・29図、図版3）

最も下位で検出された小区画水田跡である。土層断面（第29図B-B'）では、畦畔は地山の高まりとして現れており、黒褐色粘質シルト（4層＝基本層序の7層に相当）や黒褐色粘質シルト（基本層序の8層に相当）が耕作土と考えられる。検出された畦畔の幅は約0.5m～1.8mで、畦畔方位は、南北方向がN-17°-E、東西方向がN-71°-Wである。水田の形は、2.0m×3.0m程度の長方形から一辺約5.5mの正方形まで、ばらつきのある状況である。また、畦畔に沿って枕列の検出された部分がある。第3面を構成する土層中からは、古墳時代の土師器が少量出土しており、古墳時代頃の水田と考えられる。

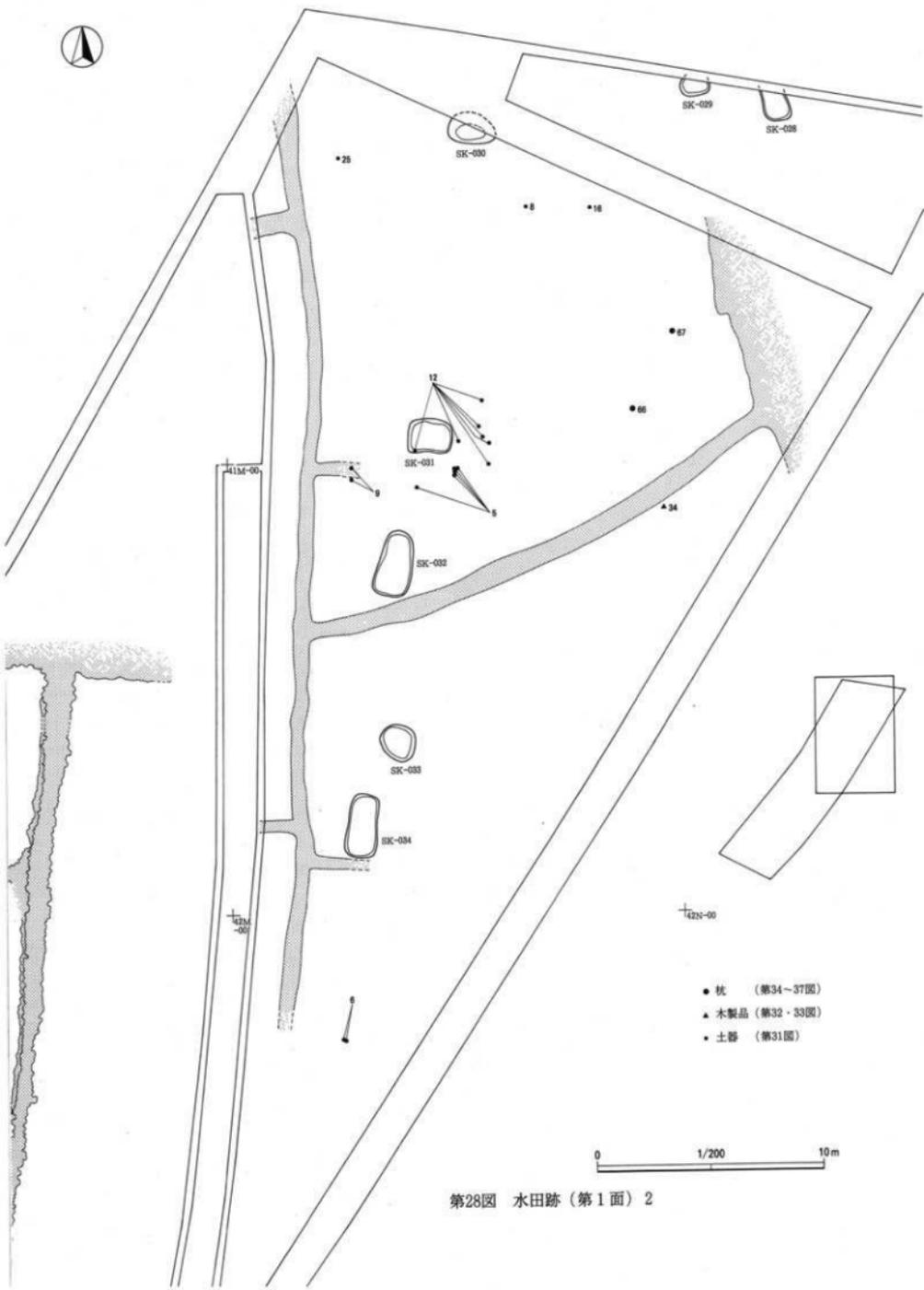
図示した出土遺物は、木製品3点（第33図36・38・39）と枕15点（第34・35図41～55）である。



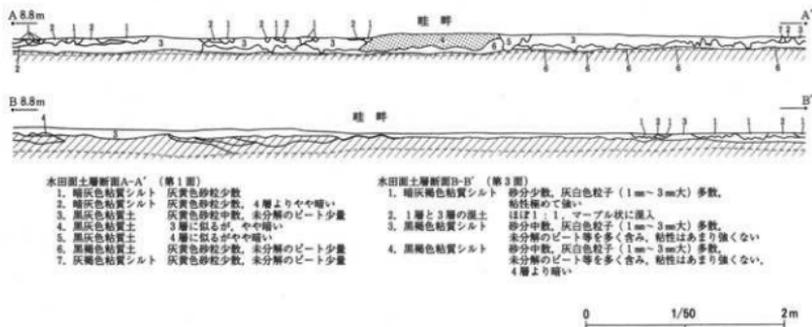
第25図 水田跡 (第3面)







第28図 水田跡 (第1面) 2



第29図 水田跡土層断面図

## (2) 第2面 (第26図, 図版2)

第3面と第1面の間に検出された小区画水田跡である。黒褐色粘質土(基本層序の6層に相当)が耕作土と考えられる。畦畔の幅は約0.5m~1.5mで、畦畔方位は、南北方向がN-3°-W、東西方向がN-80°-Eである。検出された水田の形は一辺7.0mほどの正方形を基調とするようである。ところどころで、畦畔に沿うように杭も検出された。第2面を構成する土層中からは、土師器や須恵器の小破片が少量出土しており、古墳時代頃の水田と考えられる。

図示した出土遺物は、土師器1点(第31図14)、須恵器1点(第31図15)、木製品8点(第32~34図29~33・35・37・40)、杭10点(第35~37図56~65)である。

## (3) 第1面 (第27~30図, 図版2)

第2面の上で検出された水田跡で、条里型水田と考えられるが、数時期の畦畔が重複して検出されている可能性がある。土層断面(第29図A-A')の観察によると、黒灰色粘質土(3層=基本層序の5層に相当)が耕作土、それよりやや暗い色調の粘質土(4層)を畦畔とする。畦畔の幅は約0.3m~1.5mで、畦畔方位は南北方向がN-2°~13°-E、東西方向がN-66°~89°-Eである。検出された水田の形は長方形を基調とするようだが、一定していない。また、41L~42Lグリッドにおいて、ウシなどのものとみられる足跡が検出された(第30図)。第1面を構成する土層中からは、土師器や須恵器、陶磁器の小破片などが少量出土しており、奈良・平安時代~中世頃の水田と考えられる。

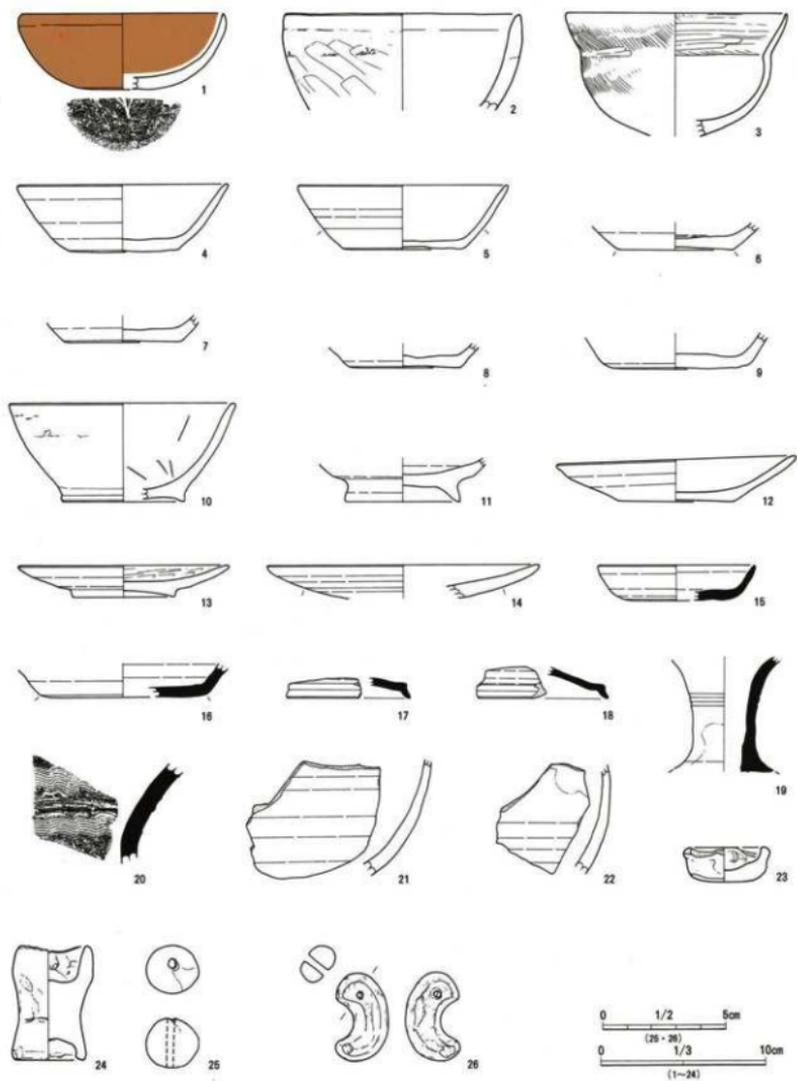
図示した出土遺物は、土師器5点(第31図5・6・8・9・12)、須恵器1点(第31図16)、土製品1点(第31図25)、石製品1点(第31図26)、木製品2点(第32図27・34)、杭2点(第37図66・67)である。

## 3 古墳時代~奈良・平安時代の出土遺物(第31~37図, 図版8~13)

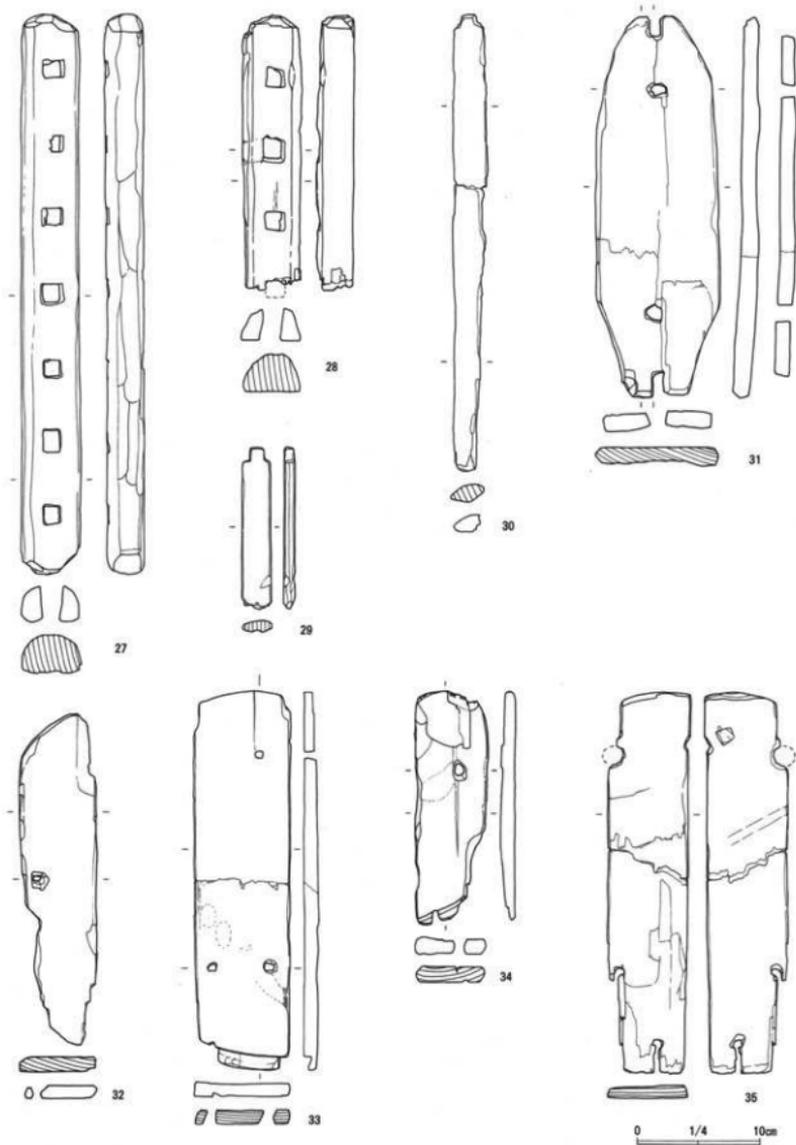
第31図1~14は土師器で、1~3は古墳時代、4~14は奈良・平安時代に比定されるものである。いずれも磨耗の著しいものが多い。1は杯で、底部外面には木葉痕が認められる。磨耗が著しく、赤彩の有無



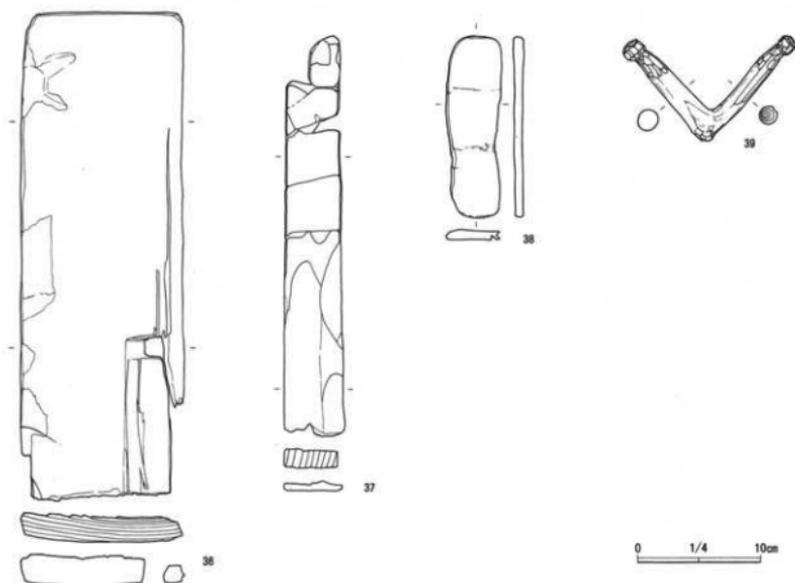
第30図 足跡 (第1面)



第31図 古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物 1



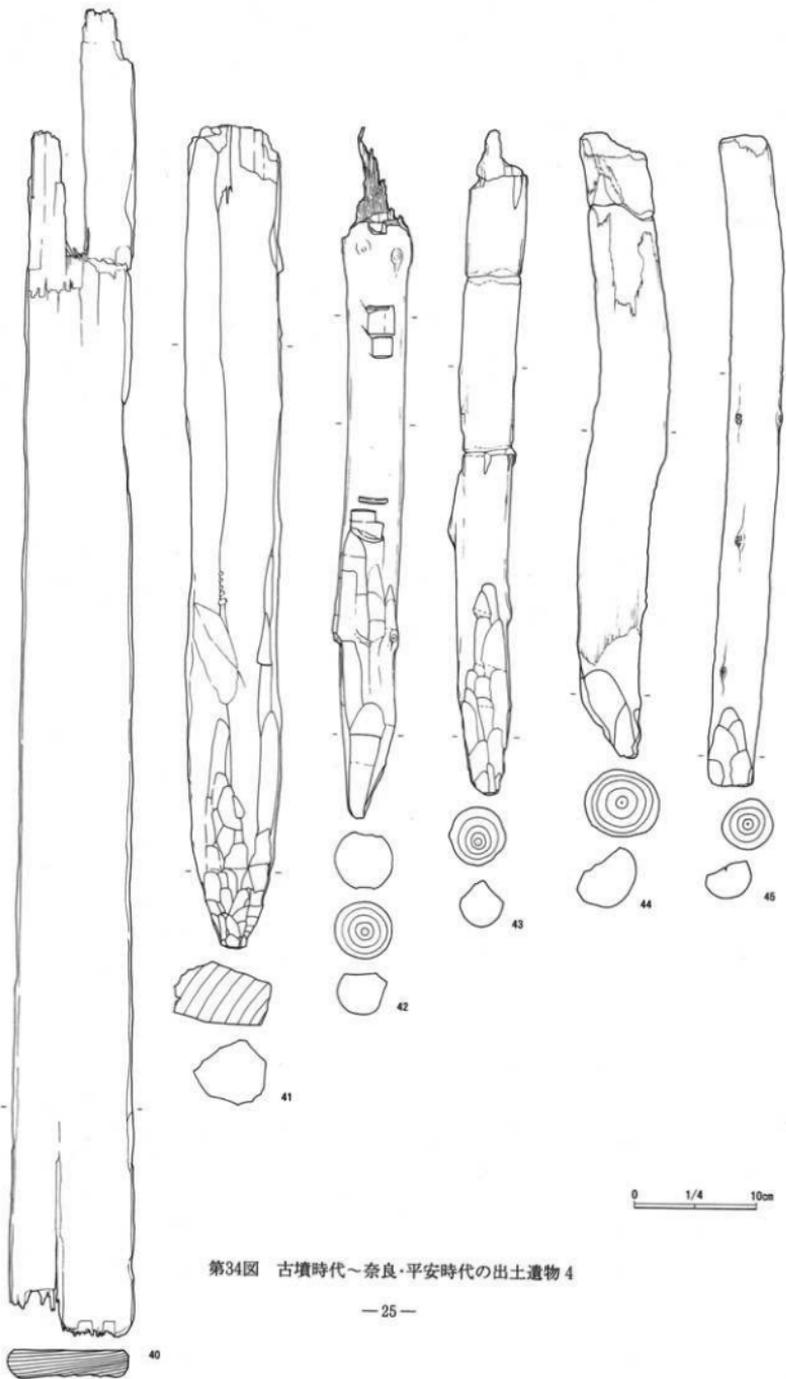
第32図 古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物 2



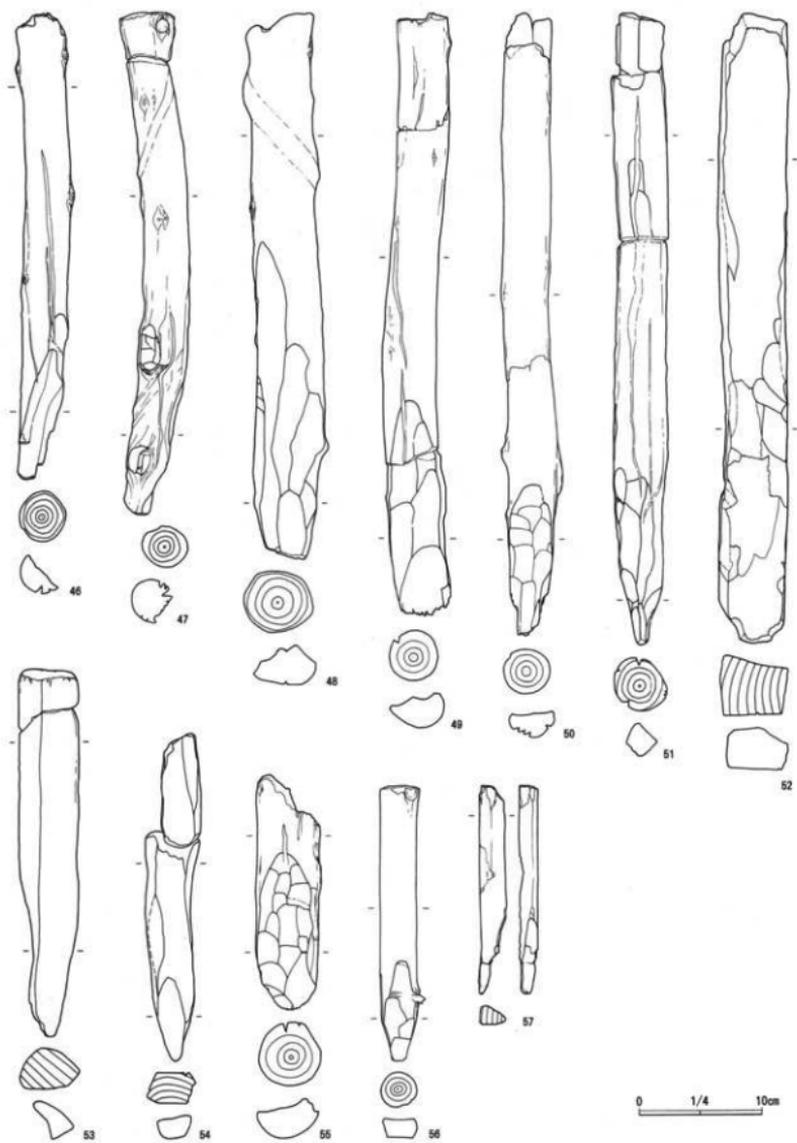
第33図 古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物 3

は不明である。2は輪積み痕が顕著に残り、粗雑な風合いの鉢である。3はハケ調整痕がみられる。外面底部付近は器面が磨滅しており、調整痕ははっきりしない。4～11はロクロ調整の杯である。4の底部外面は手持ちヘラケズリにより調整されているが、若干回転糸切りの痕跡が残されている。内面の剥落が著しい。5は器面の磨滅・磨耗が著しいが、外面体部下端にも回転ヘラケズリが施されているようである。6は、内面が煤けたように黒くやや平滑に磨耗していることから、転用碗の可能性も考えられる。7～9の底部外面には回転ヘラケズリが施される。10・11は高台付杯で、10は削出高台とみられる。内面にはヘラナデが施されるが、器面が磨滅して黒色処理の有無は明らかでない。12～14は皿である。12は器面が磨滅しているが、内面の調整はミガキとみられる。13は、底部外面にヘラケズリを施して上げ底にし、高台のように形作っている。15～20は須恵器である。15は破片であるが、小振りの杯と考えられる。17と18は同一個体とみられる蓋で、湖西窯の製品の可能性がある。19は内面口縁部を中心に自然軸がかかっている。20は甕の頸部破片で、櫛波状文が2段認められる。21・22は灰釉陶器の瓶類の破片と考えられ、同一個体とみられる。23は手捏土器である。胎土は非常にきめ細かく焼成が良好である。24は高杯形土製品である。外面に接合痕とみられる痕跡が観察できることから、杯部と脚部を別々に作って接合した可能性が高い。25は土玉である。26は滑石製勾玉である。

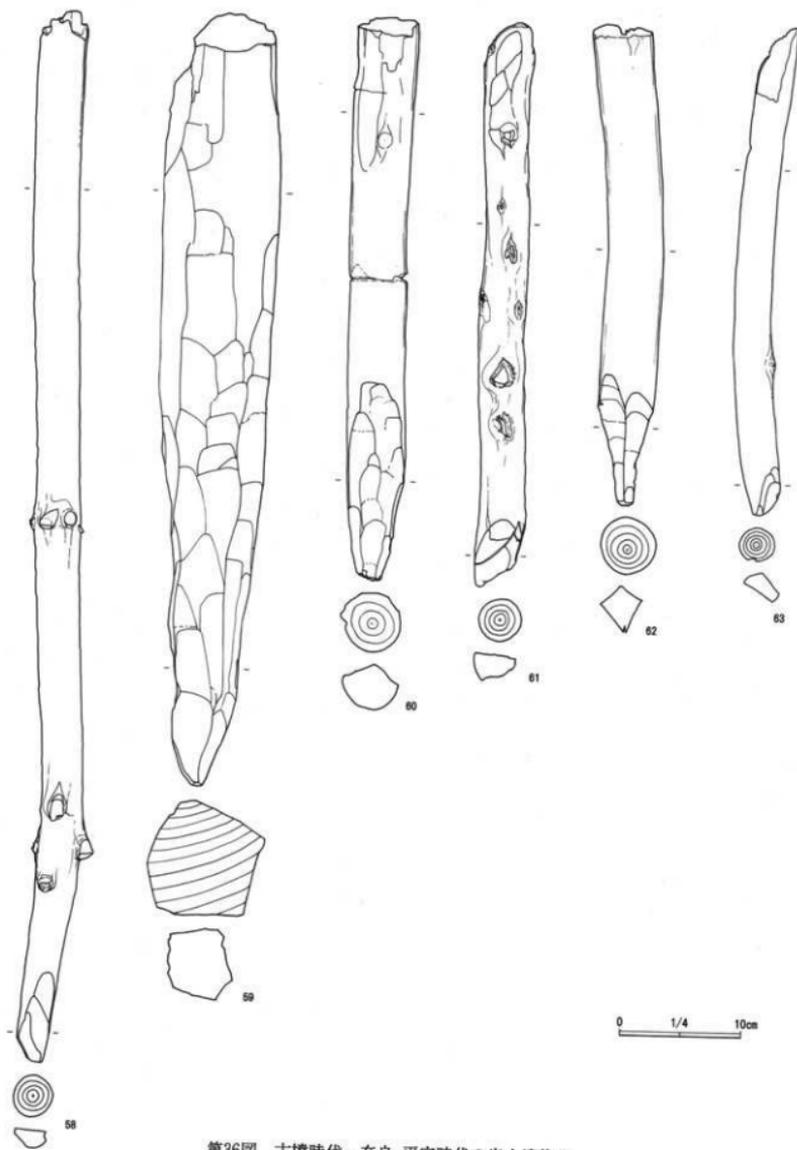
第32～34図27～40は木製品である。27・28は大足縦絆である。いずれも水田跡第1面の畦畔下から出土



第34図 古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物 4



第35図 古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物 5



第36図 古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物 6



第37図 古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物 7

したものである。27は完形品で、長さ45.8cmを計る。ほぞ穴が7か所認められる。28はほぞ穴が4か所確認できるが、27とほぞ穴の間隔はほぼ等しく、一対をなすものであった可能性がある。29・30は大足横木の破片と考えられる。いずれも水田跡第2面で出土したものである。31は田下駄横木と考えられる。舟形を呈するもので、折れて若干変形している部分はあるが完形品である。両端部には縦木に挿入して固定するためのほぞ穴が開けられている。水田跡第2面で出土した。32～35は田下駄足板と考えられるが、32・34は現状ではほぞ穴が1か所しか認められない。33・34は曲物底板を転用したものである。32・33・35は水田跡第2面で、34は水田跡第1面で出土した。36～38・40は板状の木製品で、36には四角いほぞ穴が現状で1か所認められる。36・38は水田跡第3面で、37・40は水田跡第2面で出土した。39はV字形を呈する木製品である。枝木の又の部分を利用し、端部を有頭状に丁寧に削り出して形作っている。水田跡第1面で出土した。

第34～37図41～67は杭である。杭は、丸木の端部を金属の刃物で削って尖らせたものが多いが、角材を用いたものもある。41～55は水田跡第3面に伴って出土した杭で、主に畦畔に沿って穿たれていたものである。56～65は水田跡第2面に伴って出土した杭である。58には枝を切り落として用いた痕跡が認められる。66・67は水田跡第1面に伴って出土した杭である。67は四角く抉り入れられている。

### 第3節 中世以降の遺構と遺物

中世以降の遺構としては、掘立柱建物跡2棟、土坑17基、溝状遺構6条などが検出された。以下、それらを選種種類ごとに遺構番号順に報告するが、遺構の計測値は第1表にまとめてあり、詳説は省く。

#### 1 掘立柱建物跡

43Kグリッド付近で、柱穴とみられるピットが多数集中して検出された。「ピット群」として発掘調査を行い、遺物の出土したピットに「P1」から遺構番号を付したが、調査終了後に一部が2棟の掘立柱建物跡に復元できたため、それらについては整理作業時に「SB 001」「SB-002」の遺構番号を付した。

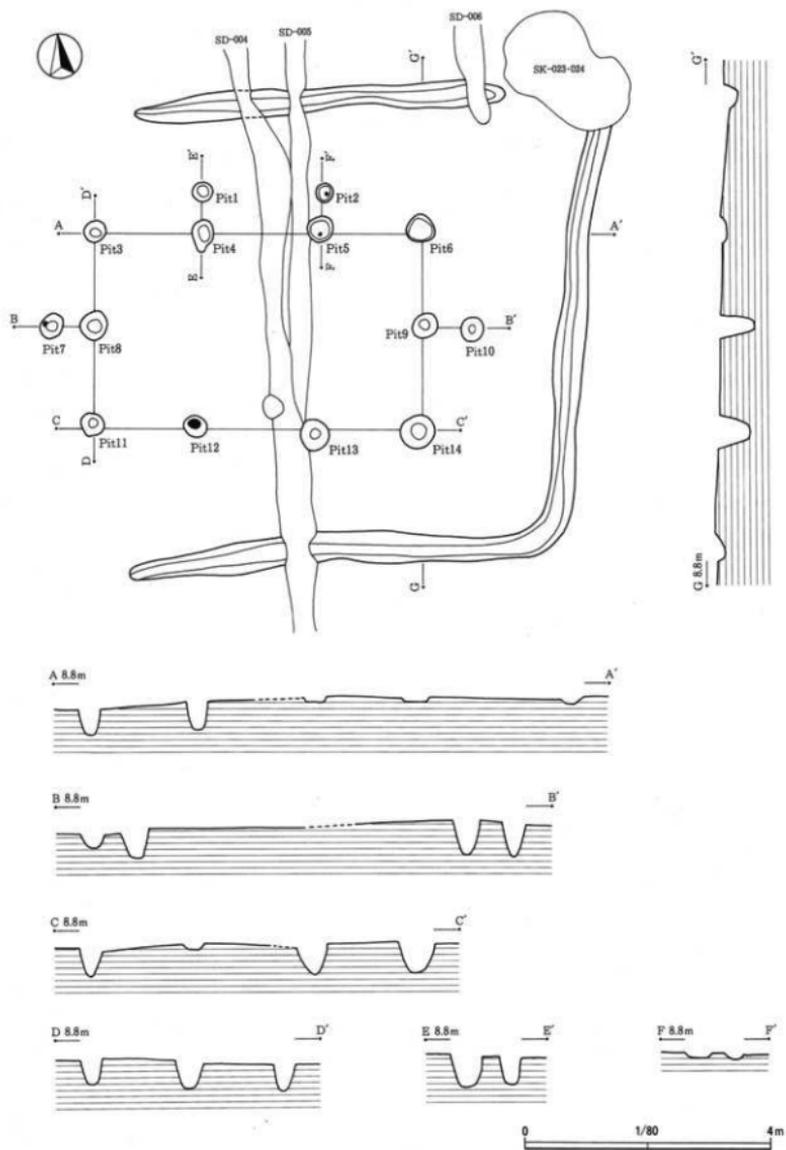
遺物はピット内から、柱根と思われる木材のほか、土師器・須恵器の小破片が微量出土し、状況等からいずれも中世以降の所産と考えられるものの、新旧関係の決定は困難である。

#### SB-001 (第38図、図版3)

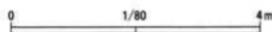
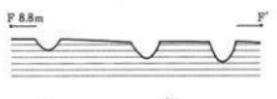
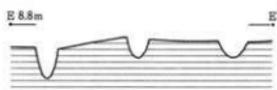
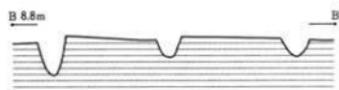
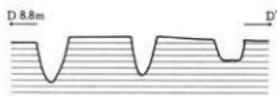
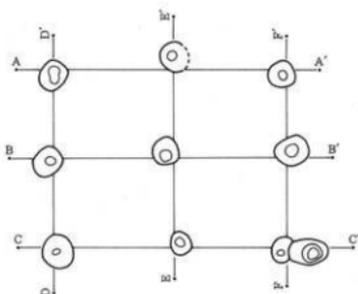
建物規模は、梁行2間(3.2m)×桁行3間(5.4m)、桁行方位はN-84°-Wとなる東西棟の掘立柱建物である。柱間は梁行1.6m、桁行1.8mである。Pit 8の外側にPit 7、Pit 9の外側にPit 10がそれぞれ存在し、これらが独立棟持の可能性もある。また、Pit 4・Pit 5の北側にPit 1・Pit 2が並んで存在しているが、入口の可能性もある。柱穴掘方の平面形は、現状で径0.4m～0.55mほどの円形である。検出面からの深さは0.1m～0.55mである。周囲をコ字状に取り巻く溝は、区画溝と考えられ、その幅は、約0.5m、断面形は緩いU字形で、検出面からの深さは約0.1mである。

#### SB-002 (第39図、図版3)

建物規模は、梁行2間(2.8m)×桁行2間(3.8m)で、桁行方位はN-88°-Wとなる東西棟の総柱建物である。柱間は梁行1.4m、桁行1.9mである。柱穴掘方の平面形は、現状で径0.3m～0.5mほどの円形である。検出面からの深さは0.2m～0.75mである。



第38圖 SB-001



第39図 SB-002

## 2 土坑

### SK-003 (第40図, 図版4)

平面形は8字状を呈する。覆土は暗灰色粘質土を主体とし、下層には粗砂が多く含まれる。土層断面から、重複するSD-001より古い。遺物は出土していないが、遺構の状況等から中世頃の所産と考えられる。

### SK-004 (第41図, 図版4)

平面形は楕円形を呈する。重複するSD-001と共通の層(1層)が最上層にあることから、SD-001より古い。遺物は土師器の小破片が微量出土したが、遺構の状況等から中世頃の所産と考えられる。

### SK-005 (第42図, 図版4)

平面形は楕円形を呈する。遺物は出土していないが、遺構の状況等から中世以降の所産と考えられる。

### SK-006 (第43図, 図版4)

平面形は楕円形を呈する。遺物は出土していないが、遺構の状況等から中世以降の所産と考えられる。

SK-012 (第44図, 図版5)

平面形は円形を呈する。遺物は縄文土器と土師器の小破片が微量出土した。遺構の時期決定は困難だが、状況等から中世以降の所産と考えられる。

SK-014 (第45図, 図版5)

平面形は不整形円形を呈する。遺物は出土していないが遺構の状況等から中世以降の所産と考えられる。

SK-017・018 (第46図, 図版5)

いずれも平面形は不整形円形を呈する。重複するようであるが、新旧関係は不明である。遺物は土師器の小破片が微量出土したが、いずれも遺構の時期決定は困難で、状況等から中世以降の所産と考えられる。

SK-019 (第47図)

平面形は円形を呈する。遺物は土師器の小破片が微量出土したが、遺構の時期決定は困難で、状況等から中世以降の所産と考えられる。

SK-020 (第48図)

平面形は不整形円形を呈する。遺物は出土していないが遺構の状況等から中世以降の所産と考えられる。

SK-021 (第49図)

平面形は円形を呈する。遺物は出土していないが、遺構の状況等から中世以降の所産と考えられる。

SK-022 (第50図, 図版5)

平面形は円形を呈する。遺物は土師器の小破片と石が微量出土したが、遺構の時期決定は困難で、状況等から中世以降の所産と考えられる。

SK-023・024 (第51図, 図版6)

平面形はいずれも円形とみられる。両者及び重複するSB-001区画溝との新旧関係は明らかでない。SK-024の底面から石が出土した以外は出土遺物はなく、状況等からいずれも中世以降の所産と考えられる。

SK-025 (第52図)

平面形は楕円形を呈するとみられる。遺物は出土していないが状況等から中世以降の所産と考えられる。

SK-026 (第53図, 図版6)

平面形は不整形円形を呈する。遺物は出土していないが、状況等から中世以降の所産と考えられる。

SK-027 (第54図)

平面形は円形を呈するが、縁辺部に1か所、ビッドが重複するようである。遺物は出土していないが、状況等から中世以降の所産と考えられる。

### 3 溝状遺構

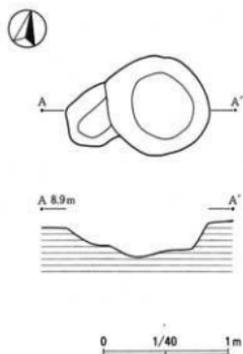
SD-001 (第4・55図, 図版6・14)

東西-南北方向に屈曲する溝状遺構である。土層の観察から、重複するSK-003, SK-004よりも新しい。遺物は土師器や近世以降の陶磁器小破片が少量出土しており、中世以降の所産である可能性が高い。

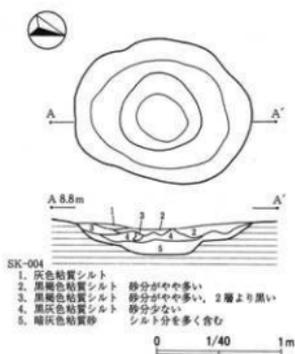
図示した出土遺物は2点(第55図2・8)である。

SD-002 (第4図)

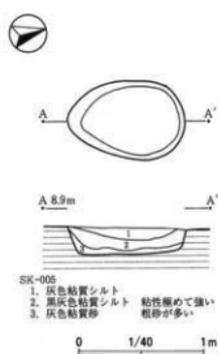
南北方向に軸をとる溝状遺構である。北側はSD-001と繋がり、南端は調査区外へ続く。遺物は土師器の小破片が微量出土したが、遺構の時期決定は困難で、状況等から中世以降の可能性が高いと考えられる。



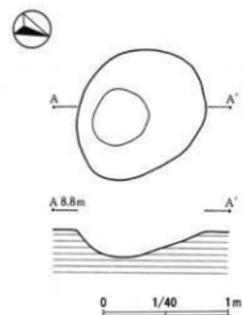
第40図 SK-003



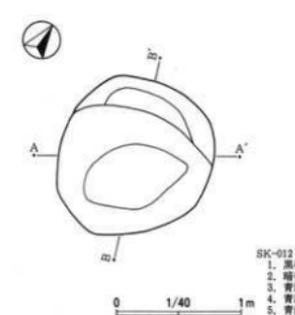
第41図 SK-004



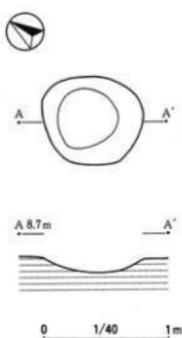
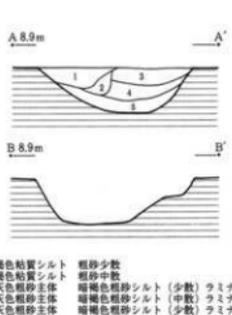
第42図 SK-005



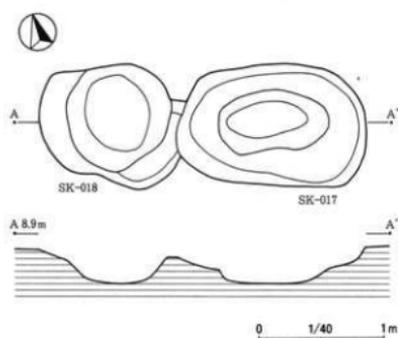
第43図 SK-006



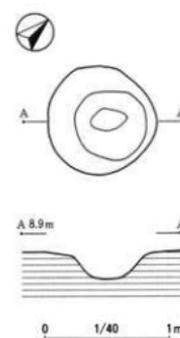
第44図 SK-012



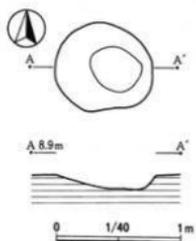
第45図 SK-014



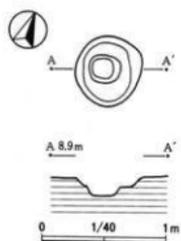
第46図 SK-017・018



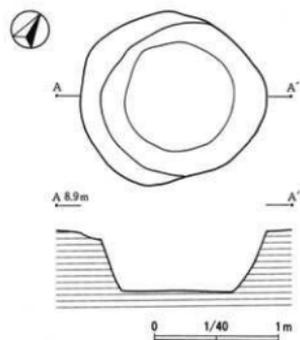
第47図 SK-019



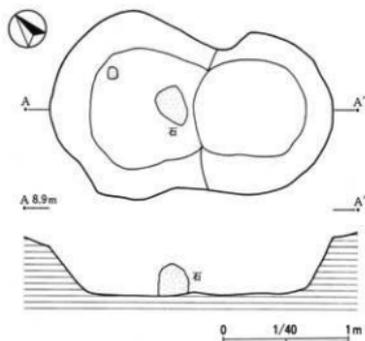
第48图 SK-020



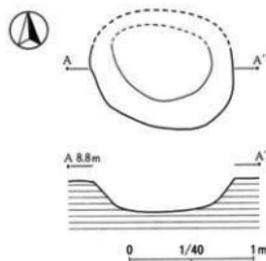
第49图 SK-021



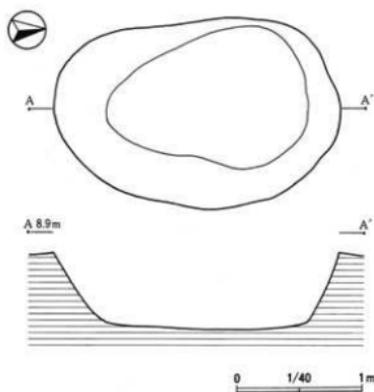
第50图 SK-022



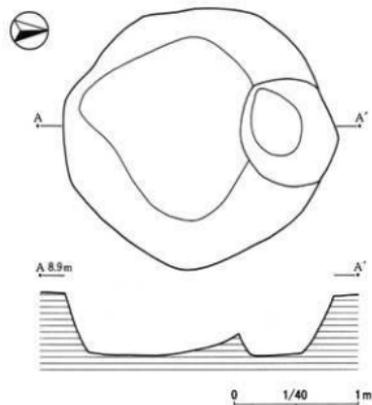
第51图 SK-023 · 024



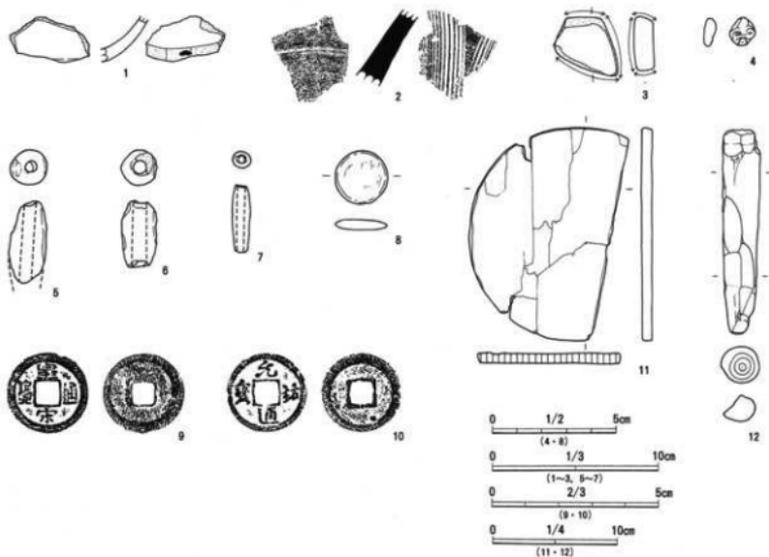
第52图 SK-025



第53图 SK-026



第54图 SK-027



第55図 中世以降の出土遺物

SD-003 (第4図, 図版6・14)

東西方向に軸をとる溝状遺構である。西端は分岐し、東端は調査区外へ続く。SK-027と重複するが新旧関係は明らかでない。遺物は土師器や土製品類の小破片のほか、木片やクジラ骨の破片なども出土した。

図示した出土遺物は木製品2点(第55図11・12)である。

SD-004 (第4図)

南北方向に軸をとる溝状遺構である。SD-005と合流するが、新旧関係は明らかでない。遺物は出土していないが、遺構の状況等から中世以降の所産と考えられる。

SD-005 (第4図)

南北方向に軸をとる溝状遺構である。SD-004と南端で合流するが、新旧関係は明らかでない。遺物は出土していないが、遺構の状況等から中世以降の所産と考えられる。

SD-006 (第4図)

南北方向に軸をとる溝状遺構である。遺物は出土していないが状況等から中世以降の所産と考えられる。

#### 4 中世以降の出土遺物(第55図・図版14)

第55図1は青磁碗の破片である。漆接ぎの痕跡がみられる。2は摺鉢の破片である。3は転用砥石で、常滑甕頸部破片の破断面と図の表面が使用されている。4は泥面子である。5～7は土錘である。8は基石である。9・10は銭貨で、9は皇宋通宝、10は元祐通宝である。11・12はSD-003から出土した木製品で、11は曲物底板、12は杭である。

### 第3章 汐入川採集遺物

長須賀条里制遺跡の南、東田遺跡との境界に汐入川が存在する。遺跡周辺の川原には、多くの遺物が散乱しており、長須賀条里制遺跡又は東田遺跡に帰属するものと考えられる。ここでは汐入川の川原で採集された遺物を報告する（第56図、図版15）。

第56図1～9は縄文土器である。縄文土器はいずれも磨耗しているが、硬質である。1・2は早期に比定できるもので、1は燃糸文系土器、2は条痕文系土器である。3～6は前期に比定できるものである。3の地文は縄文である。繊維を多量に含むためはつきりしないが、燃糸圧痕文のようなものも観察できる。4は波状口縁とみられる。半截竹管により文様が施される。5は波状口縁の波頂部破片で、沈線で渦巻きの意匠が施された周囲に細い半截竹管による文様がみられる。6は爪などにより施文される。地文に縄文か条痕文が施されている可能性もあるが、明らかでない。内面には条痕文が施される。7～9は中期に比定されるとみられるものである。7の隆帯より下部は燃糸文が施されている。8・9は縄文を施し沈線で区画している。

10は弥生土器の壺で、輪台状に成形されている底部である。

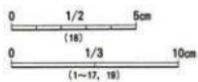
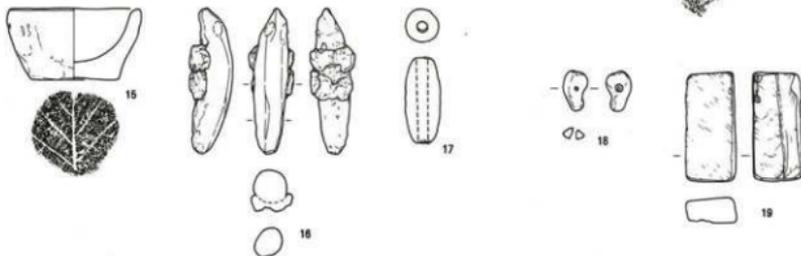
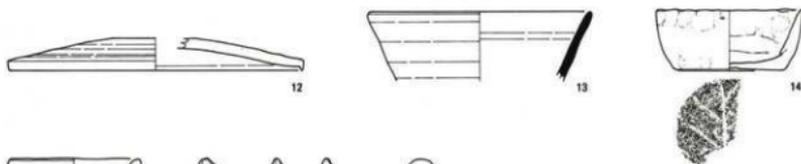
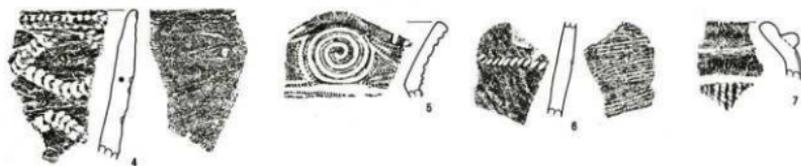
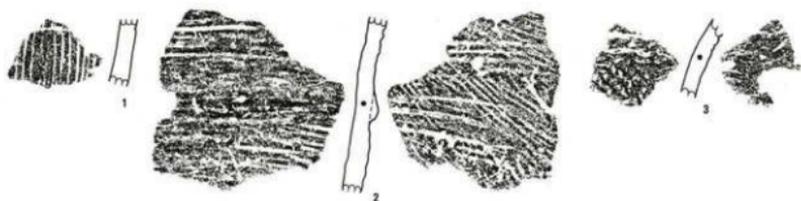
11は土師器高杯で、磨耗が著しいが、外面も赤彩の可能性もある。12は上師器蓋である。器面が磨耗しており調整痕の観察などは難しいが、内面はやや光沢を帯び、ミガキ或いは転用硯の可能性もある。また、外面に赤彩が施されていた可能性もある。

13は須恵器杯である。

14は、輪積みにより成形されていることから粗造土器と考える<sup>1)</sup>。底部外面に木葉痕がみられる。15は一塊の粘土から成形された手捏土器である。底部外面に木葉痕がみられる。16は土製品で、棒状に伸ばした粘土に小さな粘土塊が4つ貼付されている。何か生物を模したもののようでもある。17は完形の土錘である。

18は勾玉状の石製品とみられるが、形状は素材のままに近いようである。面の裏面から片面穿孔が施されている。19は砥石である。

注1 「粗造土器」とは、輪積みにより成形され、底部の木葉痕を残すなど散えて粗雑に製作したとみられる上師器をいう（高梨友子 2006 『館山市東田遺跡—国遺410号（北条）埋蔵文化財調査報告書2—』財団法人千葉県教育振興財団）。隣接する東田遺跡など、安房で特徴的に出土するもので、手捏土器と混同されがちだが、一塊の粘土から成形されるものを手捏土器、輪積みにより成形されるものを粗造土器として区別したい。



第56图 汐入川採集遺物

## 第4章 まとめ

大坪地区では、主として水田に関する遺構が検出された。長須賀条里制遺跡では、古墳時代～中世、更に近世～現代に至るまで、連続と水田が営まれていたことが、調査によって明らかになっている。これらのうち、大坪地区で検出された、古墳時代頃に比定できる小区画水田跡2面と、奈良・平安時代頃に比定できる条里型水田跡1面について、これまでの調査成果と合わせて考えてみたい。

### 第1節 小区画水田跡

古墳時代頃の小区画水田跡は、これまでB区で1面、E区で2面検出されている<sup>2)</sup>。それらのうち、今回検出された第3面と形態的に類似するのは、B区で検出されたものである。B区は大坪地区の北約250mに位置し、検出された水田跡は、軸方向は大坪地区とはやや異なるが、2m×3mほどの長方形を基調とするもので、古墳時代前期頃に比定できると考えられる。大坪地区第3面も、状況的にはほぼ同じ時期のものと考えて良いのではないだろうか。

一方、大坪地区第2面の水田跡は、一辺約7mの正方形を基調とするものである。E区で検出された新旧2面の水田跡(「第2水田面」「第3水田面」)は、いずれも3m×4mほどの長方形を基調とし、B区及び大坪地区第3面の区画よりは広いが、大坪地区第2面のものよりは狭いものである。E区で検出された水田は、木植を介して水路とつながっていたとみられ、その水路からは古墳時代中期の土器や銅鏡、子持勾玉を初めとする石製模造品などが多量に出土している。E区で検出された水田が古墳時代中期頃のものとすれば、それよりやや区画が広く、軸方向が真北に近くなる大坪地区第2面の水田のほうが、やや新しいものと考えられよう。時期は、第2面の時期に伴う溜井戸とも考えられるSK-013の出土遺物などから、古墳時代後期頃と考えることができるのではないだろうか。

つまり、これまでに検出された長須賀条里制遺跡の小区画水田は、古い順に、B区及び大坪地区第3面→E区第3水田面→E区第2水田面→大坪地区第2面と推定することができる。

### 第2節 条里型水田跡

古墳時代の小区画水田に引き続き営まれたとみられるのが、条里型水田である。

大坪地区第1面では、南北方向の畦畔が4条ほど、そのうち最も西側の細い1条を除いた3条が約10m間隔で検出された。東西方向は2条ほどである。南北方向の畦畔方位は、最も西側の細いものがN-10°-E、その隣がN-13°-E、更に隣がN-7°-E、最も東側のものがN-2°-Eと、それぞれ若干異なる。東西方向は、東側のものがN 89° E、西側のものがN 66° Eである。

条里型水田の畦畔とみられる遺構は、長須賀条里制遺跡では既にA区や館山大貫千倉線調査区などでも検出されているが、このうちA区で検出された畦畔は、南北方向が約20m間隔で2条、東西方向は2条(ただし、古段階のものと重複)である。畦畔方位は、南北方向がN-5° E、東西方向がN-77°-Eである。

検出された南北方向の畦畔の間隔から、A区では半折形の坪内地割がなされているとみられるが、わずか150m南の大坪地区では、一見、長地形の坪内地割がなされているように見える。このことについて、



これまでに検出された条里型水田畦畔を現在の地形図に乗せ、現況から推定される坪地割<sup>2)</sup>を参考に、半折形の坪内地割推定線を被せてみたのが第57図である<sup>3)</sup>。現況では、北から東に約10度振れる方向が坪地割の軸として推定されるが、ここではA区で検出された畦畔をもとに、北から東に約5度振れる方向を軸として推定線を引いてみた。すると、大坪地区で検出された南北方向の畦畔のうち、西側のものと東側のものがその推定線上に位置していることが明らかとなった。また、同時に東西方向の畦畔についても、東側のものがほぼ推定線上に位置していることがわかった。つまり、大坪地区第1面もA区同様、半折形の坪内地割がなされていたとみることができる。また同時に、A区で検出された南北方向の畦畔のうち、西側のものが坪地畦畔である可能性も高まったと見えよう。

第1面で、変則的ともいえる畦畔が検出されたことについて、一口に条里型水田の畦畔といっても、数時期の畦畔が重複している可能性を示しているのかもしれない。A区で方位の若干異なる占段階の畦畔が同時に検出されたことなどからも考えられることであり、実際の地形に合わせるなどして、区画の調整が繰り返されていたことを示す可能性がある。いずれにせよ、検出された畦畔は現在の区画によく合致しており、条里制地割が現在まで痕跡をとどめている様子が窺える。

これらの条里型水田の年代については、遺物が小破片ばかりで量も多くはなく、また営田期間が中世以降まで連続と続いていることもあり、特定が難しいと言わざるをえない。しかしながら、強いて言うとなれば、一部8世紀代に比定されるものもあるものの、9世紀中葉～後葉に比定される遺物が多いという傾向を積極的に捉えて、概ね9世紀後半頃の年代が考えられるだろう。

注1 A区・B区・E区の調査成果については、全て以下による。

土屋治雄・城田義友・高梨友子 2004 『館山市長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡-国道410号(北条)埋蔵文化財調査報告書1-』財団法人千葉県文化財センター

2 財団法人千葉県文化財センター 1995 『長須賀条里制遺跡見学会資料』

3 第57図の畦畔の図は、本書及び以下による。

土屋治雄・城田義友・高梨友子 2004 『館山市長須賀条里制遺跡・北条条里制遺跡-国道410号(北条)埋蔵文化財調査報告書1-』財団法人千葉県文化財センター

城田義友 2005 『緊急地方道路整備委託(館山人貫千倉線)埋蔵文化財調査報告書-館山市長須賀条里制遺跡・東山遺跡-』財団法人千葉県文化財センター

第1表 長須賀条里制遺跡(大坪地区)遺構一覧表

調査年度	報告書遺構名	調査時遺構名	遺構種類	時代	平面形	大きさ(m)	検出層からの深さ(m)	所在グリッド	備考
H15	SB-001	ビット跡	掘立柱建物跡	中世以降	2間×3間(側柱)			43K	独立棟持・入口ビット? 区画線あり
H15	SB-002	ビット跡	掘立柱建物跡	中世以降	2間×2間(側柱)			43K	
H15	SD-001	SD-1	溝状遺構	中世以降?		19.0×2.0	0.1	43L~44L	東西方向~南北方向に屈曲する
H15	SD-002	SD-2	溝状遺構	中世以降		5.5×0.4	0.1	43L~44L	
H15	SD-003	SD-3	溝状遺構	中世以降?		20.0×2.0	0.4	44K	
H15	SD-004	SD-4	溝状遺構	中世以降		13.0×0.4	0.1	43K~44K	
H15	SD-005	SD-5	溝状遺構	中世以降		8.0×0.3	0.1	43K	
H15	SD-006	SD-6	溝状遺構	中世以降		3.0×0.4	0.2	43K	
H15	SK-001	SK-1	土坑	奈良・平安時代	不整形円形	0.7×0.6	0.3	42L	
H15	SK-002	SK-2	土坑	奈良・平安時代	楕円形	1.1×0.7	0.3	42L	
H15	SK-003	SK-3	土坑	中世頃	8字状	1.2×0.8	0.3	43L	
H15	SK-004	SK-4	土坑	中世頃	楕円形	1.4×1.2	0.2	43L	
H15	SK-005	SK-5	土坑	中世以降	楕円形	0.9×0.6	0.2	43L	
H15	SK-006	SK-6	土坑	中世以降	楕円形	1.2×0.9	0.2	43L	
H15	SK-007	SK-7	土坑	奈良・平安時代	楕円形	1.4×1.1	0.2	43K	
H15	SK-008	SK-8	土坑	奈良・平安時代	円形又は楕円形	(1.0)×0.5	(0.2)	43K	
H15	SK-009	SK-9	土坑	奈良・平安時代	不整形	0.7×0.5	0.2	42K	
H15	SK-010	SK-10	土坑	奈良・平安時代	楕円形	0.9×0.7	0.1	42L	
H15	SK-011	SK-11	土坑	奈良・平安時代	楕円形	1.1×0.9	0.3	42K	
H15	SK-012	SK-12	土坑	中世以降	円形	1.3×1.3	0.4	43L	
H15	SK-013	SK-13	土坑	古墳時代	円形	1.5×1.5	0.4	42K	
H15	SK-014	SK-14	土坑	中世以降	不整形楕円形	0.8×0.7	0.1	42K	
H15	SK-015	SK-15	土坑	奈良・平安時代	楕円形?	(1.0)×1.0	(0.4)	42K	
H15	SK-016	SK-16	土坑	奈良・平安時代	楕円形?	(0.8)×0.5	(0.2)	42K	
H15	SK-017	SK-17	土坑	中世以降	不整形楕円形	1.5×1.0	0.3	44K	
H15	SK-018	SK-18	土坑	中世以降	不整形楕円形	0.9×0.9	0.2	44K	
H15	SK-019	SK-19	土坑	中世以降	円形	0.9×0.9	0.2	44K	
H15	SK-020	SK-20	土坑	中世以降	不整形楕円形	0.8×0.7	0.1	44K	
H15	SK-021	SK-21	土坑	中世以降	円形	0.6×0.6	0.2	44K	
H15	SK-022	SK-22	土坑	中世以降	円形	1.4×1.4	0.5	43K~44K	
H15	SK-023	SK-23	土坑	中世以降	円形?	(2.3)×1.3	0.5	43K	
H15	SK-024	SK-24	土坑	中世以降	円形?	(2.3)×1.5	0.5	43K	
H15	SK-025	SK-25	土坑	中世以降	楕円形	1.4×1.2	0.3	43K	
H15	SK-026	SK-26	土坑	中世以降	不整形楕円形	2.3×1.5	0.6	44K	
H15	SK-027	SK-27	土坑	中世以降	円形	2.1×2.1	0.5	44K	
H17	SK-028	SK-1	土坑	奈良・平安時代	隅丸長方形?	(1.3)×1.2	(0.2)	40N	
H17	SK-029	SK-2	土坑	奈良・平安時代	楕円形?	(1.4)×1.7	(0.5)	40N	
H17	SK-030	SK-3	土坑	奈良・平安時代	楕円形?	(2.1)×0.7	(0.2)	40M	
H17	SK-031	SK-4	土坑	奈良・平安時代	隅丸長方形	2.0×1.4	0.4	40M	
H17	SK-032	SK-5	土坑	奈良・平安時代	隅丸長方形	3.0×1.5	0.4	41M	
H17	SK-033	SK-6	土坑	奈良・平安時代	不整形円形	1.6×1.6	0.3	41M	
H17	SK-034	SK-7	土坑	奈良・平安時代	隅丸長方形	2.8×1.3	0.5	41M	





種別	番号	出土位置	種別名	形状	長さ	口径	口縁部径	胴部径	底径	重量	径			土			備考
											内径	外径	底径	粘り	粘り	粘り	
銅器	10	多人川	銅	長方形の銅板	8.6	-	-	26.5	ナナ	ヘタナ	○	○	○	褐色、紫灰色	内面	褐色	○
銅器	11	多人川	銅	口縁部の銅環	5.5	-	-	7.6	ナナ	モゴ	○	○	○	褐色、紫灰色 (銅板に接する?)	内面	褐色	○
銅器	12	多人川	銅	口縁部の銅環	17.6	-	-	3.5	ロ	ロ	○	○	○	褐色、紫灰色	内面	褐色	○
銅器	13	多人川	銅	口縁部の銅環	13.2	-	-	3.8	ロ	ロ	○	○	○	褐色、紫灰色	内面	褐色	○
銅器	14	多人川	銅	口縁部の銅環	16.0	6.0	-	2.7	ナ	ナ	○	○	○	褐色、紫灰色	内面	褐色	○
銅器	15	多人川	銅	口縁部の銅環	17.7	6.2	-	4.5	ナ	ナ	○	○	○	褐色、紫灰色	内面	褐色	○

※銅器の( )は銅板、[ ]は銅環を示す。  
 ※土上の銅器は( )は「銅器」、○は「土」、△は「少量」、▲は「微量」を示す。  
 ※銅器の口縁部、○は「銅器」、△は「少量」、▲は「微量」を示す。

第3表 長須賀桑里制遺跡(大坪地区) 銅器土製品観察表

種別	番号	出土位置	種別名	運行度	長さ・直径	幅・厚径	最大厚	孔径	重量	土			備考
										粘り	粘り	粘り	
銅器	25	4044-22	土玉	100%	2.0	2.1	2.0	0.5×0.4	7.6	○	△	○	淡明褐色、淡紫褐色
銅器	3	3	銅板	100%	3.6	3.8	1.2	-	20.4	○	-	○	褐色、紫灰色 赤褐色銅板
銅器	4	H115表棟	瓦葺子	100%	1.1	1.1	0.5	-	0.4	○	-	○	淡明褐色
銅器	5	4	土塊	70%	(5.0)	2.2	2.2	0.7×0.7	17.1	○	△	○	淡褐色
銅器	6	H115表棟	土塊	80%	4.1	2.2	2.1	0.9×0.8	13.4	-	△	○	褐色、紫灰色
銅器	7	H115表棟	土塊	95%	4.2	1.1	1.1	0.5×0.5	3.9	○	△	○	淡褐色
銅器	15	砂人川	土製品	100%	8.8	2.7	2.6	-	30.8	○	○	○	にこい、紫褐色
銅器	17	砂人川	土塊	100%	5.2	2.0	2.0	0.7×0.6	18.0	○	○	○	褐色、紫灰色、紫褐色

※銅器の( )は銅板、[ ]は銅環を示す。  
 ※土上の銅器は( )は「銅器」、○は「土」、△は「少量」、▲は「微量」を示す。  
 ※銅器の口縁部、○は「銅器」、△は「少量」、▲は「微量」を示す。

第4表 長須賀条里制遺跡(大坪地区) 掲載石器・石製品観察表

押図	番号	出土位置	種類	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
					(cm)	(cm)	(cm)	(g)	
第8図	10	H17トレンチ	磨石	砂岩	7.4	6.2	5.9	386.7	
第8図	11	H17一括	凹石	安山岩	7.3	5.8	3.6	239.6	
第8図	12	H15トレンチ	凹石	安山岩	11.6	9.7	4.4	541.7	
第8図	13	下層確認グリッド2	軽石製品	軽石	7.8	7.2	5.1	80.8	
第8図	14	下層確認グリッド1	軽石製品	軽石	5.7	4.2	2.8	24.5	
第31図	26	5層	勾玉	滑石	3.6	2.2	1.0	11.5	孔径0.3×0.3, 変形
第55図	8	SD-001	磨石	粘板岩	2.2	2.1	0.4	3.1	
第56図	18	沙入川	勾玉形石製品	砂岩	1.7	1.0	0.5	0.5	孔径0.3×0.2, 変形
第56図	19	沙入川	砥石	凝灰岩	6.6	2.9	1.5	48.6	

第5表 長須賀条里制遺跡(大坪地区) 掲載銭貨計測表

押図	番号	出土位置	遺物番号	銭種	外縁外径(mm)		外縁内径(mm)		内縁内径(mm)		外縁厚(mm)	内面厚(mm)	量目		
					縦	横	縦	横	縦	横					
第55図	9	ピット群	一括	皇宋通宝	2.5	2.5	1.9	1.9	0.9	0.9	0.7	0.7	0.1	0.1	3.8
第55図	10	H15調査区	1	元祐通宝	2.4	2.4	2.0	2.0	0.9	0.9	0.7	0.7	0.1	0.1	2.9

第6表 長須賀条里制遺跡(大坪地区) 掲載木製品計測表

押図	番号	出土位置	遺物番号	遺物名	長	幅	厚	備考	
					(cm)	(cm)	(cm)		
第32図	27	5層畦畔下	第1面	1	大足版杵	45.8	4.9	3.3	
第32図	28	5層畦畔下	第1面	1	大足版杵	22.4	4.9	3.1	ほぞ穴7か所あり
第32図	29	40N-91	第2面	8	大足横木	13.2	2.4	0.9	
第32図	30	40N-30	第2面	5-10	大足横木	37.1	2.9	1.5	
第32図	31	41M-49	第2面	1	田下駄横木	31.0	10.3	1.6	
第32図	32	40M-16	第2面	7	田下駄足板	27.0	6.3	1.2	
第32図	33	40M-99	第2面	2					
		41M-27	第2面	1	田下駄足板	30.9	7.9	1.2	曲物底板転用
第32図	34	41M-19	第1面	1	田下駄足板	19.1	5.9	1.4	曲物底板転用
第32図	35	41M-09	第2面	1	田下駄足板?	31.1	6.9	1.1	ほぞ穴4か所あり
第33図	36	41M-41	第3面	1	板状木製品	40.0	13.3	2.6	
第33図	37	40M-85	第2面	13	板状木製品	33.8	5.0	1.6	
第33図	38	下層確認グリッド1	第3面	6	板状木製品	14.7	4.6	0.9	
第33図	39	5層	一括		V字形木製品	8.6	14.2	1.8	
第34図	40	41M-82	第2面	1	板状木製品	111.3	10.3	2.5	
第34図	41	41M-31	第3面	3	枕	69.9	8.6	6.7	
第34図	42	41M-13	第3面	6	枕	57.8	5.7	4.8	
第34図	43	41M-13	第3面	2	枕	55.7	5.9	5.0	
第34図	44	41M-13	第3面	3	枕	52.3	6.2	5.6	
第34図	45	41M-13	第3面	4	枕	54.6	4.2	4.2	
第35図	46	40M-95	第3面	11	枕	38.1	4.0	4.1	
第35図	47	41M-22	第3面	5	枕	41.0	4.5	3.3	
第35図	48	41M-03	第3面	3	枕	44.7	6.0	5.0	
第35図	49	41M-13	第3面	5	枕	49.2	4.9	4.2	
第35図	50	41M-04	第3面	3	枕	51.0	5.0	3.6	
第35図	51	40M-86	第3面	7	枕	51.7	4.7	4.3	
第35図	52	40M-57	第3面	7	枕	51.5	5.8	4.9	
第35図	53	41M-22	第3面	1	枕	30.0	4.9	3.3	
第35図	54	40M-95	第3面	12	枕	26.8	4.4	2.5	
第35図	55	41M-13	第3面	2	枕	19.2	5.3	5.1	
第35図	56	41M-31	第2面	1	枕	22.5	3.7	2.9	
第35図	57	40M-44	第2面	6	枕	17.0	2.3	1.6	
第36図	58	40M-94	第2面	5	枕	88.5	3.9	3.5	
第36図	59	40M-89	第2面	6	枕	64.9	9.7	9.6	
第36図	60	41M-04	第2面	2	枕	47.4	5.3	4.9	
第36図	61	40M-85	第2面	5	枕	47.7	4.2	3.5	
第36図	62	40N-35	第2面	1	枕	40.5	5.0	4.8	
第36図	63	40M-85	第2面	11	枕	41.1	3.1	2.8	
第37図	64	40M-86	第2面	4	枕	86.7	5.3	4.2	
第37図	65	40M-86	第2面	1	枕	91.4	7.2	6.5	
第37図	66	40M-88	第1面	3	枕	96.5	6.3	5.7	
第37図	67	40M-79	第1面	1	枕	31.9	5.1	5.3	挟りあり
第55図	11	SD-003		5	曲物底板	17.4	12.9	0.9	
第55図	12	SD-003		3	枕	16.7	3.1	3.0	

第7表 長須賀条里制遺跡(大坪地区) 掲載遺物重量表

(単位: g)

調査年度	遺構・グリッド	縄文土器	弥生土器	土師器・埴輪・鉢	土師器杯・高杯類	須恵器・灰輪陶器	粗造土器	土製品類	近世以降陶磁器	石器・石製品	その他	合計
15	SK-008					117						117
15	SK-013				137			137				274
15	SD-001								33			33
15	ピット群									4 鏡片		4
15	3層									20 熟用砥石		20
15	3~4層							103				103
15	4層				58			28		17 土鏃		103
15	5層				90							90
15	5~6層				117	7						124
15	下層水田		38			74						112
15	トレンチ				73	10			15			98
15	下層確認グリッド		1,579									1,579
15	表探	5	41	68		45				29 土鏃・泥団子・鏡片		188
15	H15年度調査区合計	5	1,658	68	475	253	0	268	48	0	70	2,845
17	40Mグリッド			31	220	39		8				298
17	40Nグリッド											0
17	41Mグリッド				107							107
17	41Nグリッド											0
17	42Mグリッド				53							53
17	トレンチ			103		94						197
17	一括											0
17	H17年度調査区合計	0	31	103	380	133	0	8	0	0	0	655
	沙入り探池	459	266		126	19	48	124		49		1,091
	遺跡合計	464	1,955	171	981	405	48	400	48	49	70	4,591

※木製品は除く

第8表 長須賀条里制遺跡(大坪地区) 非掲載遺物重量表

(単位: g)

調査年度	遺構・グリッド	縄文土器	弥生土器	土師器・埴輪・鉢	土師器杯・高杯類	須恵器・灰輪陶器	粗造土器	土製品類	近世以降陶磁器	石器	その他	合計
15	SK-002			6	5							11
15	SK-004		4									4
15	SK-008				3							3
15	SK-011			38								38
15	SK-012	22	61									83
15	SK-013			162	62							224
15	SK-015			17								17
15	SK-016				8							8
15	SK-017			3	2							5
15	SK-019			5								5
15	SK-022				8					3		11
15	SD-001			45	22	11					2 炭	80
15	SD-002			36	7							43
15	SD-003			49	94						39 骨	182
15	ピット群			38	43							81
15	3層			171	156					4	11 キセル・炭	342
15	3~4層			392	148			121	881	13 鉄・種		1,555
15	4層			854	435	234		210	105			1,838
15	5層			353	159	132		42	20			706
15	5~6層			276	68							344
15	下層水田(第3圃)			469	59		64			3		601
15	トレンチ			223	212	40			58	54	4 炭	591
15	下層確認グリッド		16	176							885 骨	1,077
15	表探	277	678	3,535	899	362	81	17	462	671		6,982
15	H15年度調査区合計	299	759	6,848	2,390	779	145	17	893	1,747	954	14,831
17	SK-028			4	10							14
17	SK-029			17	37							54
17	SK-030			50	17							67
17	SK-031				3							3
17	SK-034		31									31
17	40Mグリッド			3,198	448	203				191	38 骨	4,078
17	40Nグリッド			849	82							938
17	41Mグリッド			164	108					38	7 炭・種	317
17	41Nグリッド			27	126							153
17	42Mグリッド			24	5							29
17	トレンチ			3,705	1,674	119			33	1,847	176 鉄・骨・炭	7,554
17	一括			1,015	628				113	281		2,037
17	H17年度調査区合計	0	31	9,053	3,138	322	0	0	146	2,357	228	15,275
	沙入り探池	552	85	2,165	471	160			1,885	650		5,968
	遺跡合計	851	875	18,066	5,999	1,261	145	17	2,924	4,754	1,182	36,074

※木は除く

# 写真図版





水田跡 (第1面)



水田跡 (第1面)



水田跡 (第2面)



水田跡 (第3面)



水田跡 (第3面)



SB-001・002



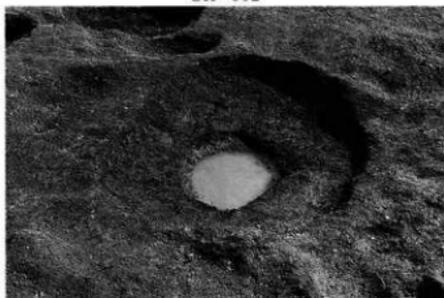
SK-001



SK-002



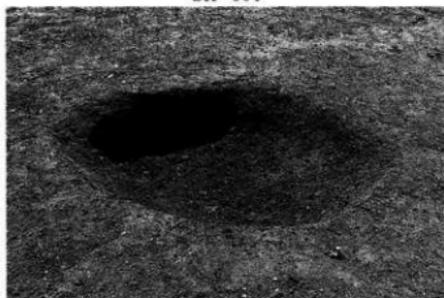
SK-003



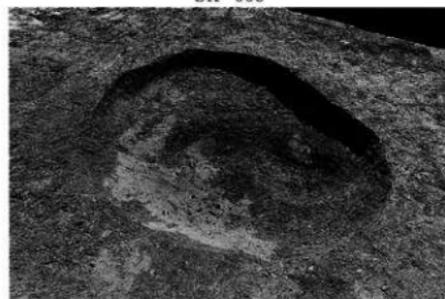
SK-004



SK-005



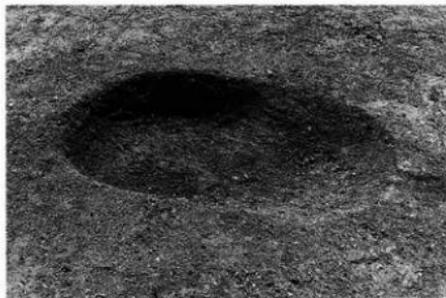
SK-006



SK-007



SK-008



SK-010



SK-011



SK-012



SK-013



SK-014



SK-015 · 016



SK-017 · 018



SK-022



SK-023·024



SK-026



SK-028



SK-029



SK-032



SK-034



SD-001



SD-003



第8図1



第8図2



第8図3



第8図6



第8図4



第8図6



第8図5



第8図7



第8図9

弥生時代以前の出土遺物 1



第8図10



第8図11



第8図12



第8図13



第8図14

弥生時代以前の出土遺物 2



第12図1



第31図4



第31図19



第16図1



第31図5



第31図23



第16図2



第31図10



第31図24



第16図3



第31図11



第16図4



第31図12



第31図25



第31図3



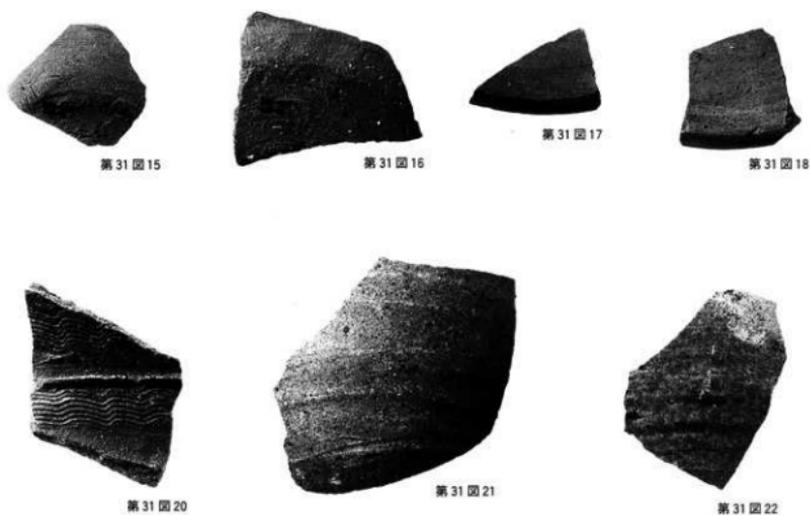
第31図13



第31図26



古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物 2



古墳時代～奈良・平安時代の出土遺物 3



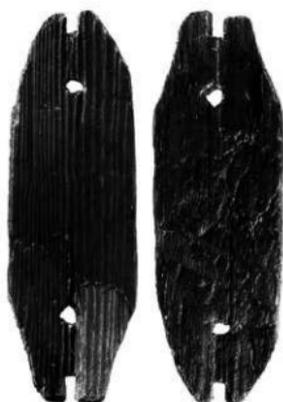
第 32 図 27



第 32 図 28



第 32 図 29



第 32 図 31



第 32 図 32



第 32 図 34



第 32 図 30



第 32 図 33



第 32 図 35



第 33 図 36



第 33 図 37



第 33 図 38



第 33 図 39



第 34 図 40



第 34 図 42



第 34 図 43



第 34 図 44



第 34 図 45



第 34 図 41



第 35 図 46



第 35 図 47



第 35 図 48



第 35 図 49



第 35 図 50



第 35 図 51



第 35 図 52



第 35 図 53



第 35 図 54



第 35 図 55



第 35 図 56



第 35 図 57



第 36 図 58



第 36 図 59



第 36 図 60



第 36 図 61



第 37 図 64



第 37 図 65



第 36 図 62



第 36 図 63



第 37 図 67



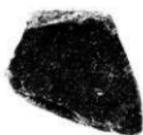
第 37 図 66



第 55 図 1



第 55 図 2



第 55 図 3



第 55 図 4



第 55 図 5



第 55 図 6



第 55 図 7



第 55 図 8



第 55 図 9



第 55 図 10

中世以降の出土遺物 1



第 55 図 11



第 55 図 12

中世以降の出土遺物 2



汐入川採集遺物

## 報告書抄録

ふりがな	たてやましながすかじょうりせいせいせき								
書名	館山市長須賀条里制遺跡								
副書名	一般国道410号道路改築事業（大坪）埋蔵文化財調査報告書								
巻次									
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告								
シリーズ番号	第563集								
編著者名	高梨友子								
編集機関	財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター								
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地の2 Tel 043-424-4848								
発行年月日	西暦2006年12月25日								
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		経 緯 度		調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経				
長須賀条里制遺跡	館山市下真倉字大坪263ほか	12205 12205	002(3) 002(4)	34度 58分 24秒	139度 52分 18秒	20040106～ 20040326 20050506～ 20050623	3,600㎡	道路建設に伴う埋蔵文化財調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物		特記事項			
長須賀条里制遺跡	生産 集落域	弥生 古墳～ 奈良・平安 中世以降	水田跡、土坑  掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構	弥生土器 土師器、須恵器、土製品、石器・石製品、木製品 陶磁器、土錘、銭貨、木製品		小区画水田跡を2面、条里型水田跡を1面検出			

千葉県教育振興財団調査報告第563集

館山市長須賀条里制遺跡

— 一般国道410号道路改築事業（大坪）埋蔵文化財調査報告書 —

---

平成18年12月25日発行

編 集	財団法人 千葉県教育振興財団 文化財センター
発 行	千葉県県土整備部 千葉県中央区市場町1-1 財団法人 千葉県教育振興財団 四街道市鹿波809番地の2
印 刷	大和美術印刷株式会社 木更津市潮浜2-1-10

---